



エレナ・ビエリカ

村議会の運命：
アフガニスタンの農村部に対
する覇権を確立するための首長
国の取り組み



AFGHANISTAN
ANALYSTS
NETWORK

アフガニスタンアナリストネットワーク
政治的な風景

コミュニティ開発評議会(CDC)は、国家連帯プログラムとその後継である市民憲章によってイスラム共和国の下で設立されたが、アフガニスタン・イスラム首長国によって廃止され、政府機関は代わりにウレマ評議会と開発プロジェクトを調整するよう命じられた。

しかし、アフガニスタンには、CDCよりもずっと前から、草の根、集団、意思決定、問題解決のための組織、シューラ(村議会)という長年の伝統がある。それらはアフガニスタンの村落を通じて村の生活で重要な役割をはたし、さらには「1933年以降の国内権力危機を国を安全に乗り越えた」と、人類学者の故ルイス・デュプリーは称賛した。AANのエレナ・ビエリカ氏とAANチームは、2022年11月から2024年6月にかけてアフガニスタン全土の村民にインタビューを行い、IEAの支配下で彼らのシューラがどのように進んだかを学んだ。

多くのインタビュー対象者は、新政府は村長(多くの場合、自ら選んだ村長)と協力することを好み、ほとんどの村にはまだ村議会があったが、村長からの圧力があつたと報告している。

当局、それらの評議会はメンバーが少なく、事実上、象徴的だった。2024年春までに、禁止される前から、ほとんどのシューラはすでに州によって無視されていた。

紹介

紹介	4
調査結果のまとめ	7
村議会:不朽の「ブリコラージュ」	10
コミュニティ開発評議会	13
現場からの証拠:何が生き残ったのか?	18
2022年の村議会	19
2023年の村議会	24
2021年8月の乗っ取り後の村議会の権限に対する認識	30
評議会の代表性	32
評議会の影響と正当性	36
2024年の村議会	39
アミールの命令によるCDCの解散	43
結論	46
付録1 - インタビュー表、2023年	50
付録2 - アンケート、2023年	51
付属書3 - 農村復興開発省からの書簡 コミュニティ開発評議会の廃止	53

目次

村落議会は、草の根、集団、意思決定、問題解決の機関として、激動の時期を含め、アフガニスタンで長い間重要な役割を果たしてきた。¹ ジルガ(パシュトー語)とシューラ(ダリー語)²はどちらもこれらの体を指すために使用され、時には同じ意味で使われる。この二つの用語が時々同じ意味で使われることは、村の議会の可変的な性質の理解を促進するのに役立つ、とクリス・ジョンソンとジョリオン・レスリーは書いているが、それは「この中で物事を行う方法の一つではない」という意味である

しかし、複雑な選択肢の配列、そして異なる人々による矛盾した説明は、その現実の異なる次元を反映している。³ さらに、彼らが何と呼ばれているかにかかわらず、デュプリーが言うように、「アフガニスタンのほとんどの民族集団は、何らかの部族、村、または地域評議会を持っている」。⁴ シューラはアフガニスタンのコミュニティがどのように統治するかだけでなく、各コミュニティと国家との関係も形作る複雑な構造の一部だ。⁵ (この論文では、これらの機関を指すために、シューラと評議会の両方を使用する。

¹ ルイ・デュプリーによれば、村議会在「国を安全に運んだ」 「1933年以降の内部権力危機」は、その年の11月8日のムハンマド・ナーディル・シャー国王の暗殺に続くものだった。Louis Dupree, *Afghanistan, Princeton Legacy Library, 1973*を参照。

² ジルガはパシュトー語(モンゴル語起源)で、「円」(平等な声を象徴する)を意味し、男性が座って拘束力のある決定を下す場所だ。「シューラ」という言葉はアラビア語に由来し、通常は「評議会」と訳される。パシュトゥーン人以外の多くの村では、村議会を示すために使われている。

³ ジョンソン、クリス、ジョリオン・レスリーを参照。 *アフガニスタン: 平和の蜃気楼*、ロンドン、ゼッドブックス、2004年。

⁴ デュプリーは書いている:

ダイナミックで独断的、保守的なジョージ・ルース・ケッペル卿は、1908年から1919年まで北西辺境州を統治し、パシュトゥーン人は改革で提供された正式な立法メカニズムに役に立たないとイギリス領インド帝国を説得した。彼は、パシュトゥーン人のジルガ制度が民主主義の実践であると主張した(p486)。ジルガは通常、パシュトゥーン人の習慣だが、アフガニスタンのほとんどの民族グループには何らかの同等のものがある。部族、村、または地域評議会(P 570)。ジルガシステムでは、すべての投票が開かれており、参加者は手(またはライフル)を上げて問題に投票する。しかし、秘密投票の下では、多くの人が表現したように、「人は公の場で一方的に話し、非公開で別の方法で投票することができる」(p589)。

⁵ Christine Noelle-Karimi, '[Jirga, Shura and Community Development Councils: Village Institutions and State Interference](#)', in Conrad Schetter (ed), *Local Politics in Afghanistan: A Century of Intervention in the Social Order*, 2013, online edition, Oxford Academic: 参照:

アフガニスタン評価研究ユニット(AREU)の元所長オルザラ・アシューラフ・ネマットは、アフガニスタンの村は「村落共和国」に似ていると主張し、自治のための草の根メカニズムと「公共財、治安、紛争解決、その他の基本的サービスを住民に提供する」能力を備えていると主張した。実際には、これらの「村落共和国」は、シューラまたは長老たちの評議会(ダリー語のリシュ・サフィダン、パシュトー語のスピンジェリ、白ひげ)によって管理されており、彼らは臨時的に会合を開き、資源の管理から紛争の解決まで、あらゆる種類の問題に対処している。⁸シューラとは、ネマットが指摘するところによると、

権力はここにあり、マリク、ムッラー、ミラブ[水の分配を組織する責任者]などの強力なアクターを任命する決定がどこにあるのか...[彼らは]内部の紛争や紛争を解決し、外部の介入に対する村の対応を決定するために行動する。

これらのシューラは、村を外部の権力者と結びつける複雑なネットワークに不可欠な架け橋として機能してきた。彼らは、国家機関、地元の司令官/軍閥、国際的な関係者、国内または国際的な援助組織の代表者である可能性がある。評議会は通常、主に親族関係、民族性、共通の宗教的所属、そして過去約半世紀にわたる戦場での友情を通じて築かれた、さらに広範なネットワークと結びついている。これらのネットワークを通じて、評議会のメンバーは、資源と外部者からの村の保護の両方の観点から、後援を確保したいと考えている。より大きなネットワークに属していると思われることは、通常、地域社会における個人の重要性と力を増大させている。

[アフガニスタン駐留イギリス軍司令官、1840-42年、ウィリアム・ジョージ・キース少将] エルフィンストーンのジルガの描写は、一見和解できないが相互依存している国家と部族の関係を捉えることの難しさを伝えている。一方で、彼は村議会をパシュトゥーン族の「内部政府」と表現し、その平等主義的な特徴を強調している。一方、彼は、部族組織のさまざまなレベルを反映したジルガの階層を投影し、管轄権の一致する段階を想定している。軽度の違反は村レベルで裁かれるが、彼はより深刻な犯罪に対する判断を、部族連合の任命された首長(ハーン)、村長(マリク)、ムッラーからなる高位のジルガに委ねることを前提としている。

⁶ 「村落共和国」という用語は、1988年にロンドン・スクール・オブ・エコノミクスの政治経済学・開発学教授で作家のロバート・ハンター・ウェイドによって造られたもので、生態学的条件に根ざした村内紛争の文脈における村落ベースの集団行動を説明するために作られた。「*Village Republics: Economic Conditions for collective action in South India*」、ケンブリッジ大学出版局、2008年を参照。

⁷ 「長老」という用語は、重要な経済的および/または社会的地位を持つ村の関係者を包含する。必ずしも高齢男性の特定の年齢層を指すものではない。

⁸ オルザラ・アシューラフ・ネマット「リベラル介入主義時代の地方自治: 2001年以降のアフガニスタンにおける統治関係」を参照。論文、SOAS、ロンドン大学、2015年。



AANチームのメンバーは、パルミアン州のカルカナトゥ村でシューラのメンバーと会う。出典:エレナ・ビエリカ、2019年9月

必然的に、1980年代や1990年代など、時や出来事によって、議会は、NGOや、時にはムジャヒディンの派閥によって、協力する地元の代表者を求めて変化してきた。最も組織的には、2001年以降、イスラム共和国は、草の根の村の統治構造を国家構造に統合するための手段として、特に援助に関する決定において、コミュニティ開発評議会(パシュトー語で *kaliwali parakhteyayi shura*、ダリー語で *shura-ye inkishafi*) を設立した。女性がメンバーとして追加された(詳細は以下を参照)。2021年8月に共和国が崩壊した後、評議会は世間の目から姿を消したように見えたが、援助関係者は通常、彼らと協力し続けた。しかし、イスラム首長国の下での新たな政治的現実には、地域社会がどのように舵取りをしていたのか、また、どのように国家の問題を緩和し、より良い条件を求めているのかといった問題は、より顕著になってきている。

本報告書は、アフガニスタンの民族的・地理的な広がり我代表する40人以上の男性を対象に2年間にわたって行われた50以上のインタビューに基づき、どのような村レベルの自治構造が残っているのかを検証している。

その中には、部族の長老、尊敬されるコミュニティのメンバー、ジャーナリスト、農民、教師、21の州の他の村人が含まれていた。特に、すべてが「CDC」を「shura」および「village shura」と同じ意味で使用していた。

レポートは3つの主要なセクションで構成されている:最初のセクションでは、文献レビューに基づいて村の議会の短い歴史を提供し、過去半世紀に村のガバナンスがどのように、そしてなぜ変化したかを掘り下げる。2番目のセクションでは、調査結果の方法論と議論について詳しく説明する。

調査結果のまとめ

- 18世紀半ばに近代的なアフガニスタン国家が創設されて以来、村議会は生き残り、政治的および社会的激変に適応してきた。戦争、近代化、国家建設の努力、西洋の思想の拡散そして概念、そして援助産業。
- 現地調査（2022年11月から2024年6月の間に数回にわたり、21の州で40人以上の男性を対象に50件以上のインタビューを実施）の証拠によると、村議会は影響力と正当性を備えた生来の機関として、2021年8月の政権交代後も当初は存続し、少なくとも一部の地域では共和国時代に導入された選挙の義務とシステムが流用され、承認されていた。インタビュー対象者が説明したシューラは、20世紀のコミュニティの自主管理の古い方法と新しい方法を組み合わせたハイブリッドに似ていた。インタビュー対象者は「シューラ」と「CDC」を同じ意味で使用していた。
- 政権奪取からわずか1年後の2022年11月に13の州で実施した予備インタビューでは、多くの村議会がまだ活動しているものの、ほぼすべての村議会が以前の責任を剥奪され、格下げされたと報告していることがわかった。村議会のメンバーが交代した村もあれば、村議会が村長（アルバブまたはマレク）に従属するようになった村もあった。村長はIEAによって承認され、場合によっては任命された。
- 2023年に16の州で実施されたインタビューの3分の2は、ほとんどの場所で、2022年には共和国下でのアフガニスタンの農村部に対する覇権を確立しようとする首長国の取り組みと同じ形式、つまり少なくとも長、副長、財務長、書記長を擁していた評議会が、村レベルでは象徴的な役割しか持たなくなり、政府によって無視されていることを示した。

- 調査対象となったほとんどの村では、2023年までに、シェーラの役割が コミュニティと政府は、IEAが承認した、または、 場合によっては、IEAが任命した代表者。場合によっては、このIEAが承認した 代表は、元シェーラの頭、または最も尊敬されている個人だった。
- 2023年には、新たに設立された村の「ウレマ評議会」に、より重要な役割が与えられた。
- 2024年に行われた、シェーラが少なくともある程度活動していると答えた7人の回答者へのフォローアップインタビューでは、1人の回答者が2023年以降シェーラが完全に活動していないと答え、4人が活動が減ったか活動できなくなったと答え、2人が依然として活動していると答えた。
- 私たちの調査の3つの主要なラウンドでは、1人を除くすべてのインタビュー対象者 パーミアン州のヤカウラン出身の女性は、もはや彼らの評議会のメンバーではないと述べた。(CDCの廃止後にアフガニスタンの全州の村人を対象に行われた簡潔な調査では、34のうち3つがインタビューを受けた人たちは、彼らのシェーラにはまだ女性がいると言った。圧倒的に女性がシェーラから締め出されているようだ。しかし、多くのインタビュー対象者は、このことについて不安を表明し、自分たちの喪失感や、女性問題を提起し、コミュニティで困窮している女性を特定するために果たした役割を嘆き悲しんだ。
- 多くのシェーラ/コミュニティ開発評議会は、アミールの時代にはまだ存在していた CDCの廃止命令は2024年5月23日に公布されたが、イスラム首長国が新たな関与方法を模索しているため、CDCは大部分が格下げされたり、人員が削減されたり、主に象徴的なものになったり、機能しなくなったりしていた。
- アミールの指示を受けて5月末から6月上旬にかけて行われた簡潔な調査では、CDCの廃止に関する情報は、その時点ではまだ村レベルに届いていないことが示された。

都市における現地代表

地方代表の状況は都市によって多少異なるが、それでも伝統的なモデルに従っている。例えば、カーブルでは、すべての通りにコミュニティによって選ばれた長老がいる。通りの長老を選ぶ仕組みはない。通常、通りの男性は一緒に座って決定する。

誰が彼らを代表するのか。選ばれた長老は、援助を分配する目的で受益者の選択について援助団体と連絡を取るなど、通りの対外問題を代表する任務を負っている。

しかし、最近では、通りの高齢者もコミュニティウォッチとしても機能している。彼らは新しい世帯について当局に通知する。

通り(通りの長老は、警察管区(*hawza*)に通知する近隣の長である *Wakil-e Guzar* に通知する必要がある。また、この通りの長老は、彼の地域の新しいテナントがコミュニティに配布された政府のフォームに記入していることを確認しなければならない。新しい家族には、その地域から2人の保証人が必要とされる。IEAは、通りの長老、不動産業者、ワキル・グザールに、セキュリティの面で何かが起こった場合、その責任を問うもので、それは通りに新しく来た人々のせいにされる。

IEAはまた、パキスタンからの帰国者について知らせ、支援を提供するよう、通りの長老に要請している。また、長老たちは、帰還民の活動や、コミュニティで誰とつながっているかにも目を光らせなければならない。当局はまた、長老たちに、国から避難した人々のリストと彼らの家の場所をリストアップするように指示した。また、ターリバーンであろうとなかろうと、共和国が投獄した人々を特定し、その名前を共有するよう命じた。その地域に空き家がある場合、通りの長老たちもその場所を当局に知らせるべきとされた。

村議会:不朽の「ブリコラージュ」 (訳注: フランス語でDo It Yourselfの意味)

アフガニスタンのシューラは、政治的・社会的激変、戦争、近代化、国家建設の努力、援助産業、西洋の思想や概念の急増など、生き残り、適応してきた。彼らの生存と、さまざまな政治状況で彼らが果たした役割は、いくつかの論文や本の章のトピックとなっている。農村開発の専門家であるアダム・ペインは、村落統治の変化する性質を「制度的なブリコラージュ」と表現しており、これは完全に新しいものでも完全に伝統的なものでもなく、導入されたもの、慣習的なもの、公式なもの、非公式の要素を組み合わせた「ダイナミックなハイブリッド」である。⁹時の試練に適応し、耐えてきた複雑な村レベルの構造の中で、村議会は際立って立っていると彼は述べました。

アフガニスタンでの多くの実証研究は、村落レベルの組織の耐久性、その複雑さ、および時間の経過とともに変化する性質にも注目を寄せています。このような組織には、シューラ(村議会)、ムッラー(宗教指導者)、マリクまたはアルバブ(政府の村代表)、長老などが含まれると見られてきたが、これらの慣習的な組織の名前や機能は地域や村によってかなり異なる。また、これらの慣習的な組織は、特に紛争解決と基本的な福祉の提供に関連して、村内の公共財の提供において重要な役割を果たします。

村のシューラは時代とともに変化し、アフガニスタンの他のすべてのものと同様に、1980年代と1990年代には新たな圧力にさらされました。ソビエトの占領に対する抵抗の間、アフマド・シャー・マスードは、ジャミアテ・イスラミ・ムジャヒディン派から生まれた彼のシューラ・イエ・ニザール・ネットワークのイスラム的方向性を強調するために、「シューラ」という用語を採用しました。¹⁰この用語とその機能は、アフガニスタンの最初のイスラム首長国が

⁹ Adam Pain, 'Village Context and the National Solidarity Program in Afghanistan,' *Asian Survey* 58, no 6, November 2018, 1066–89, University of California Press, <https://doi.org/10.1525/as.2018.58.6.1066>.

¹⁰ シューラ・イエ・ニザールは、1984年にアフマド・シャー・マスード司令官が他のジャミアテ・イスラミ司令官たちと共に設立した後、アフガニスタン北東部で、よく発達した影の文民政権を持つ主要な軍事組織として台頭した。

ジェニファー・ブリック・ムルタザシビリの独創的な著作「アフガニスタンの非公式な秩序と国家」によると、1990年代に設立されました。

1992年の共産主義政権の崩壊とムジャヒディンとターリバーンの台頭により、シェーラの制度は国家レベルにまで引き上げられた。シェーラという用語は再び中心性を帯びたが、ジハードに関連する宗教的な意味合いにより強く染まっていた。ターリバーンが考案した政府機関は、初歩的で分権的と表現されるかもしれない。カンダハールの最高シェーラから、ムラー・オマールと彼の仲間たちは、軍のシェーラと、変動する数の大臣からなるカーブルのシェーラを監督した。地方レベルでは、村人によって選出されたシェーラは、政府と住民との間の接触を提供することになっていた。

ジョンソンとレスリーによれば、援助組織が関与する地元組織を持つ必要性も極めて重要だったという(「[アフガニスタン:平和の蜃気楼](#)」 p42参照)。

ある場所では、彼ら(シェーラ)は社会が伝統的に機能していた方法の真の部分であり、またある場所では、解放された地域でのムジャヒディンの創造物である。

ソビエトの支配から、当時の(たとえ後に覆されたとしても)コミュニティの関与に対する真の試み。いくつかの場所では、彼らはの創造物だった。

さらに他の地域では、人々はまだ「ジルガ」やシェーラと呼ばれるものを持っていないが、決定は村の長老たちによって行われ、必要に応じて村の集会を招集する。

ムルタザシビリも同様の点を指摘し、援助の供給の仕組みがシェーラを援助の風景に恒久的なものに変えるのに役立ったと強調している。

1989年のソビエト連邦の撤退後、ペシャワールに拠点を置く多くの国際援助機関が国境を越えてアフガニスタンに移住した。1990年代にムジャヒディンとターリバーンが優勢になったとき、これらの組織は、通常状況下では政府の責任範囲内で重要なサービスを提供し続けた。人口に到達するために、機関は彼らを通ずる地元の機関を必要とした。興味深いことに、この対応物の探索は、シェーラに基づく運用管理の存在を前提としていた。国際的なアクターの視点から見ると、シェーラは固定されていると仮定した。

¹¹ ジェニファー・ブリック・ムルタザシビリ、「村落統治の建築」。第3章 非公式の秩序とアフガニスタンの国家、ケンブリッジ、ケンブリッジ大学出版局、ケンブリッジ、2016年、65-108。

エルフィンストーンがほぼ2世紀前にジルガで指摘した特徴に似ている。



パルヴァーン州バグラム地区の女性シューラの集会に出席する女性たち。 出典:米陸軍Pfcコートニーロップ経由のResolute Support Media/Flickr、2011年4月27日

1980年代から1990年代にかけて、地域開発活動を管理するために設立された地元のシューラは、「しばしば混同されてきた新しい現象」だった。

「より『伝統的な』構造」と、ガバナンス専門家のハミッシュ・ニクソンは、アフガニスタン研究評価ユニット(AREU)が2008年に発表した論文「[地方自治の変わりゆく顔:アフガニスタンのコミュニティ開発評議会](#)」で書いている。しかし、それは国際的なものだけではなかったことに注意する必要がある。

ペシャワールを拠点とするムジャヒデーイン政党は、ニクソンによれば、「シューラの路線に沿っているか、あるいはより階層的な党と司令官に基づく構造の強制を通じて他の場所で」いくつかの変更を導入した。

1980年代と1990年代のこれらの発展は、村における新たなエリートと新たな権力力学の創出を促した。図らずも、これら2つの要因がシューラの変化を可能にし、シューラは内部と外部の両方のニーズに対応し続けた。村議会が時間の経過とともにどのように変化したかを理解するには、村レベルで誰が権力と地位を獲得し、誰が失ったかを理解する必要がある。

これを掘り下げることは、この研究の範囲を超えている。しかし、次のセクションで説明するように、村のシューラは固定された伝統的な構造物でも、1980年代と1990年代に開発機関によって推進された構造物だけでもないことに注意する必要があることを強調している。

コミュニティ開発評議会

村落統治の歴史における重要な変化は、2003年に政府主導の全国連帯プログラム(NSP)または*Hambastagi Mili/Mili Paiwastoon*(ダリー/パシュトー語)とその後継である市民憲章(パシュトー語で*wolesi tarun*、ダリー語で*misaq-e shahrwandi*)が開始されたことである。世界銀行のコミュニティ主導型開発アプローチ(CDD)に触発され、農村復興開発省(MRRD)が実施したNSPは、アフガニスタンの農村部全域にコミュニティ開発評議会(CDC)のネットワークを確立することを目指した。その目的は、農村コミュニティが「自分たちの開発プロジェクトを特定し、計画し、管理し、監視する」ことができるようにすることだった。[そして]包括的な地方自治、農村再建、貧困緩和の持続可能な形態の基礎を築く」と述べている([NSP運用マニュアル](#)、2006年を参照)。CDCは「コミュニティレベルでの社会開発の基盤」として機能する予定であり、運用マニュアルによると、次のとおりである。

アフガニスタンの伝統について:

「Ashar」 - コミュニティのインフラストラクチャを改善するためにボランティアベースで協力するコミュニティメンバー。

「ジルガ」とは、コミュニティの尊敬されるメンバーと、統一、公平、正義というイスラムの価値観で構成される評議会。

2021年8月までに、男性と女性のメンバーからなるカウンスルは45,000人に達し、村に援助を届けるメカニズムとして機能し、コミュニティと実施NGOとの間の連絡役を務め、以下のことを担当した。

開発プロジェクトの実施。このプログラムはコミュニティ主導のアプローチで賞賛されたが、アダム・ペインとサイモン・レヴィンは、NSPが「以前に存在していた制度はなく、村には不平等な力関係もなかった」という仮定を批判した(ペインとレヴィンのODIポリシーブリーフを参照)。¹²「このプログラムは、村の指導者がどのように選ばれるべきか、何をすべきかについて規定していたが、それはその方法の現実に合わなかった」と彼らは言った

リーダーが選ばれ、彼らが何をしていたのか、あるいはもっと重要なことに、村人たちがリーダーに何を期待していたのかが選ばれたのです」。ただし、スコープと「国家連帯プログラム」の規模 - 約20年間の紛争から回復しつつある国の農村コミュニティにサービスを提供することを目的とした全国的なプログラム。この観点から、ペインとレヴィンが指摘しているように、「CDCは、すべての欠点にもかかわらず、おそらく村レベルでのサービス提供のための最も効果的なルートを提供している」。¹³

NSPは、CDCのメンバーをどのように選出すべきかについてのガイドラインを設定し、コミュニティに「既存のジルガやシューラのメンバーが含まれる場合と含まれない場合があるコミュニティ開発評議会に、自分たちが選んだコミュニティメンバーを選出する」ことを要求した。¹⁴ ネマットの博士論文は、最初の論文(2004-05)と2番目の論文についての洞察を提供した。

¹² ペインは、雑誌記事「アフガニスタンにおける村の状況と国民連帯プログラム」で同様の点を指摘している(全文は脚注9を参照)。

過去からの遺産がほとんどない同一の村の風景があり、村の政府を再秩序化するための新しい介入は、以前にそこにあったものを単に置き換えるだけであるというプログラムの仮定があった。

¹³ ペインとサイモン・レヴィンは次のように書いている。

CDCがアフガニスタンで期待された役割を果たすことができると信じるには、以前に存在していた地元の機関はなく、村には不平等な力関係がないと仮定する必要があった。一つの制度モデルが国全体にとって適切であるためには、さらに2つの仮定のうちの1つが必要だった: 国全体で大きな社会的差異が存在しないか、あるいは社会の社会構造や道徳的経済の違いが、その中で出現し機能しうる制度とは無関係であるかのどちらかである。

彼らはまた、「CDCが設立される前に存在していた制度と権力関係は、全国の村の巨大な社会的および政治的多様性に関係なく、機能し続けた」と指摘した。

大まかに言えば、灌漑地が広い地域では、権力は少数の手に集中する傾向があり、エリートはすべての人の利益のために統治することにあまり関心がない。土地がそれほど集中しておらず、村のエリートが他の人々よりもわずかに裕福なところでは、集団的利益への関心が高くなる。村の統治は、より広範な権力ネットワークに統合されている。リーダーは、外部の電力源から村の資源、保護、または支援を確保するために、ネットワークを使用することが期待されている。良い統治を確保するためのモデル、つまり将来の選挙で負けるという脅威は、そのようなリーダーの出現方法に合わなかった。

¹⁴ NSP Operational Manual, [2006](#) の vii ページを参照。

(2009年)ナンガラハールのベフスード地区のカライエ・ジャン・ハーンとバーミアンのヤカウラン地区のカタハナとアクンダンの3つの村でのCDC選挙。彼女は、村のエリートたちがどのようにしてプロセスをコントロールし、自分たちの利益に変えることができたかを説明した。2004-05年のベフスード選挙について、彼女は次のように書いている。

ほとんどの場合、CDCのメンバーは、マリクが彼らに選挙に立候補するように言ったので、彼らが首長としてマリクに投票することは明らかだったと述べた。

ネマットの主要な情報提供者の一人は、2009年の選挙で、カライエ・ジャン・ハーンのマレクが依然として村の統治において重要な役割を果たしていたことを詳述した。村の彼の支持者たちは、CDCの長官になるための足がかりとして利用しようと、地元の司令官がシューラのメンバーになろうとするのを阻止していた。

若い候補者はまた、コミュニティでより顕著な役割を果たすことを求めていた。

クリスティン・ノエル・カリミが「[アフガニスタンの国内および国際的なアクターの認識における村の機関](#)」で指摘したように、[評議会の議席に立候補することによって](#)：

開発プロジェクトの計画と実施に向けたその方向性を考えると、CDCは、構成と保有期間の点で異なるプロファイルを想定している。この文脈では、正式な教育を受け、援助機関と交流する能力で知られる若い候補者は、従来のオピニオンリーダーよりも一定の優位性を享受している。

一部の地域では、CDCの選挙が新しい若いエリートの伝播を促したが、一般的には、選挙は主に、すでに地元で権力の座にある人々を再確認した。

MRRDはまた、CDCを「NSPが成熟するにつれて、NSPを超えて追加の責任を引き受ける」恒久的な地方統治機関に変えることを目指していた(アレックス・モンズティによるこのジャーナル記事「[Fuzzy Sovereignty: Rural Reconstruction in Afghanistan, between Democracy Promotion and Power Games](#)」を参照)。中央による村議会を国家構造に統合しようとするこれらの試みは、地方レベルと全国レベルの両方でその重要性を増すだけだった。しかし、センターが新しく設立された評議会を統合しているという信念は、統一された組織の全国的なプログラムを展開するという点で、現実から遠く離れることはできなかった。

NSPと市民憲章を通じてアフガニスタン全土に設立された45,000以上のCDCは、あらゆる形で存在していた。CDCの選挙は「さまざまな方法で実施され」、ハミッシュ・ニクソンが上記の論文で指摘したように、CDCの結成方法に「大きなバリエーション」をもたらした。

NSPプログラムは、2017年に市民憲章に引き継がれた。この新しい世界銀行プログラムは、CDCの管理を引き継ぎ、政府とコミュニティとの新たな関係を確立することを目指した(プログラム文書は[こちら](#)、市民憲章は[こちら](#)を参照)。そのようにその前身である市民憲章は、CDCが「民主的に選出され、基本的な開発プロジェクトを実施するための訓練を受ける」ためのプログラムとして提示された。¹⁵ このプログラムは2022年12月に終了したが、実際に「CDCを民主的に選出する」ことができた程度は現在も問題として残っている。コンサルティング会社ATRが2020年に発表したコミュニティ主導型開発に関する報告書は、この期間中の選挙プロセスに光を当てている¹⁶。

正確な選挙方法は、訪問したコミュニティ間で異なった。しかし、ほとんどの選挙で共通していたのは、候補者が事前に特定されていたため、場合によってはある程度の選挙運動が可能になったという事実だった。あるコミュニティでは、事前に特定された候補者がそれぞれ票を貯めるための独自のボックスを持っていたため、コミュニティのメンバーが好みの候補者の名前を書くことなく投票することができたが、投票の秘密性が損なわれ、代替候補者に投票する機会が大幅に制限される可能性がある(レポート全文は[こちら](#))。

それにもかかわらず、NSPと市民憲章は、アフガニスタンの村の生活改善に大きく貢献した。その生涯を通じて、彼らは22億8,000万米ドル(NSP16億1,000万、市民憲章6億7,200万)を費やし、約80,000のコミュニティ主導のプロジェクト(NSP75,271、市民憲章8,440)に資金を提供し、アフガニスタンの何千もの村の生活の質を向上させた(国連ハビタットの[分析閉鎖報告書](#)、[国家連帯プログラム\(NSP\)](#)、世界銀行の

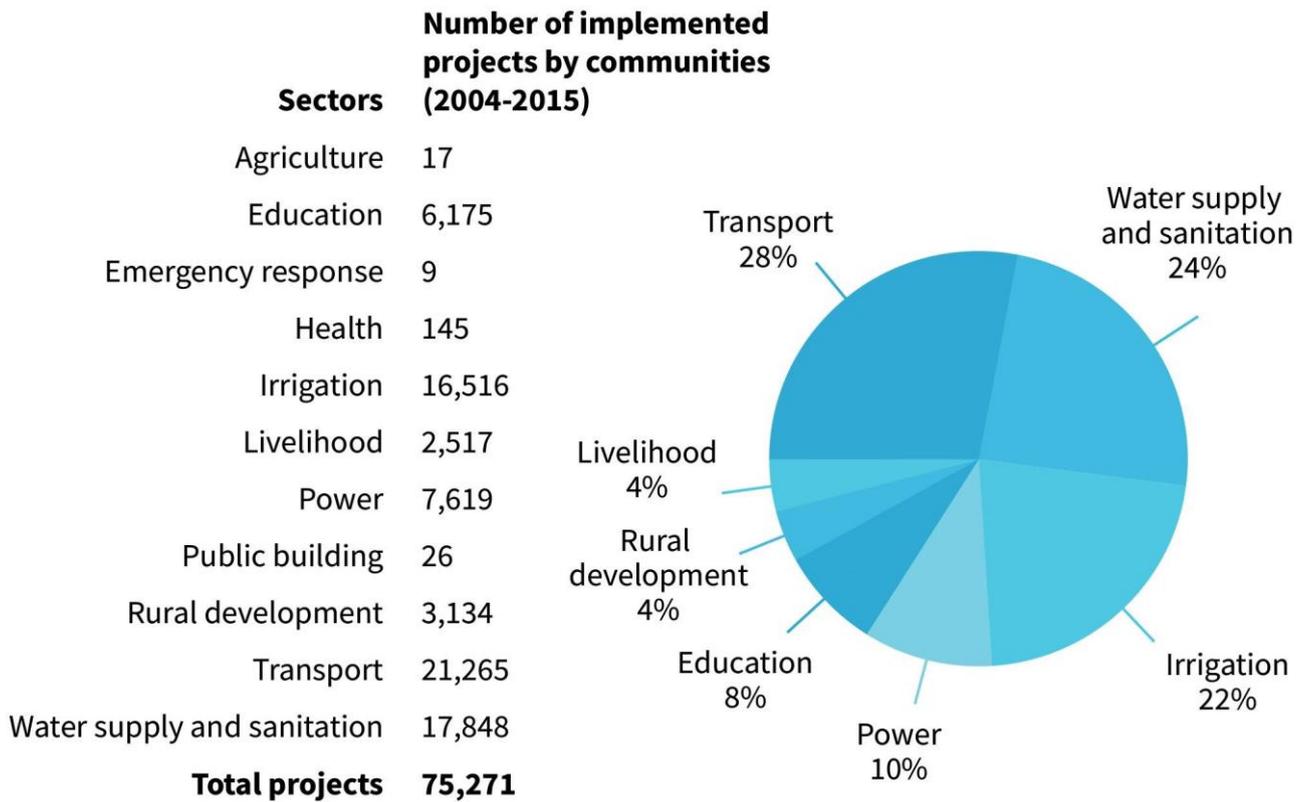
¹⁵ 市民憲章の下で設定されることを意図していた選挙プロセスの詳細な説明と、[このプログラムの下で計画された他の活動](#) この2020 AAN分析については、これを参照のこと。

¹⁶ 「[コミュニティ主導の開発における経験と期待:市民憲章アフガニスタンプロジェクト](#)に関するモニタリング研究」は、ATRがアフガニスタン救援開発調整機関(ACBAR)、インテグリティ・ウォッチ・アフガニスタン(IWA)、スウェーデン・アフガニスタン委員会(SCA)のために制作した。報告書はまた、報告された投票率、特に女性有権者の投票率に対する懸念を提起した。

不公平な認識は、報告された選挙投票率がFP[ファシリテーターパートナー]からの報告で時々水増しされているという懸念を裏付けているようだ-特に女性の参加に関して。なぜコミュニティのメンバーが選挙や社会動員の演習に参加しなかったのかと尋ねられたとき、(特に選挙に)参加しない最も一般的な理由は貧困だった。選挙は金曜日に行われることになっていたが、一部の回答者は、自分たちのコミュニティでの選挙が土曜日または日曜日に行われたと報告しており、それが一部のコミュニティでの参加率の低下を説明できると報告している。

市民憲章実施完了報告書)。このプログラムは、交通、水と衛生、水力発電、灌漑、農業、教育の分野でコミュニティが優先事項と特定したプロジェクトを支援した(NSPが支援するプロジェクトの規模と範囲については、下の図を参照のこと)。¹⁷

図1:CDCが農村部で実施したプロジェクト(セクター別)



出所: NSPの経営情報システム部門のデータを使用した、コミュニティ開発評議会のパフォーマンスレビュー。

2022年に市民憲章が廃止された後も、¹⁸の村議会、特にコミュニティ開発評議会は、アフガニスタンに関する議論に引き続き参加した。

¹⁷ 引用された論文は、Mohammad Asif Akbari と Obaidullah Rahmani です。「[アフガニスタンの地方自治の見直しから見たコミュニティ開発評議会のパフォーマンスレビュー](#)」、*International Journal of Education and Research*, vol 8, no.1, 2020年1月。

¹⁸ 世界銀行によると、「2021年8月の政権崩壊とそれに続く政治的混乱により、プロジェクトを含む[世界銀行グループ]の国別ポートフォリオは2022年2月17日に停止され、その後段階的に廃止されました。実際のクロージングは2022年12月31日」([こちらを参照](#))。

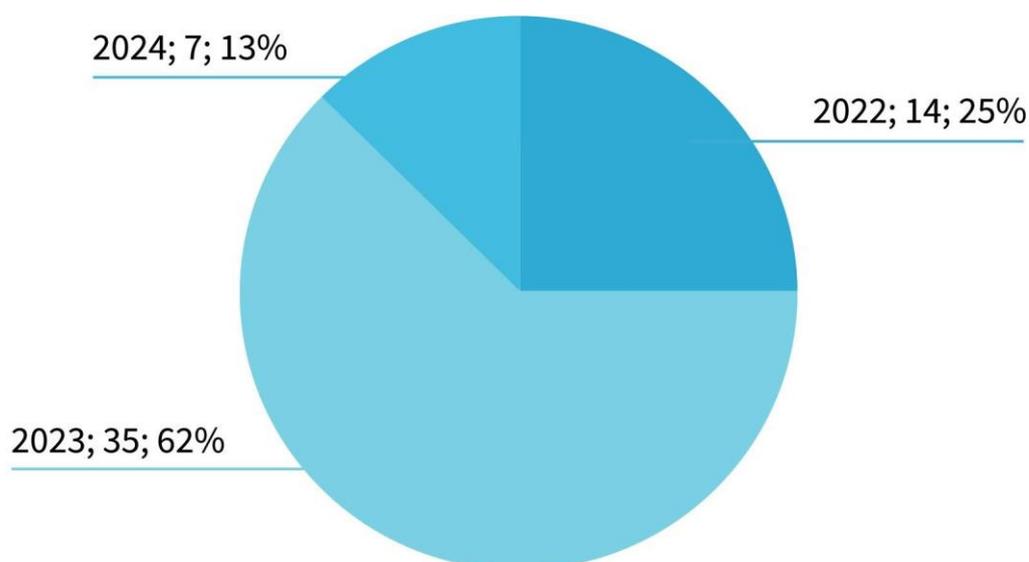
人道支援。例えば、2022年4月、世界銀行は、3億6,500万米ドルのコミュニティ・レジリエンス・アンド・ライブラフッド・プロジェクト(CRL)プロジェクトの一環として、キャッシュ・フォー・ワークなどの短期的な生計手段を含む緊急支援の提供を、各協議会と協力し始めた。

このAANの研究は、IEAのルールの下で村議会がどのように機能してきたかについての現場からの証拠を持ち込むことにより、進行中の議論に貢献することを目的としている。

現場からの証拠:何が生き残ったのか?

私たちの調査結果は、2022年11月から2024年5月にかけて実施された40人以上の主要な情報提供者への56回のインタビューに基づいている。部族の長老、尊敬されるコミュニティのメンバー、ジャーナリスト、農民、教師、その他の村人にインタビューした。インタビュー対象者は、アフガニスタンの民族的、地理的な広がり我代表していたが、全員が男性だった。

図2:2022年から2024年の間に実施されたインタビュー(数値と全体に対する割合で表示)



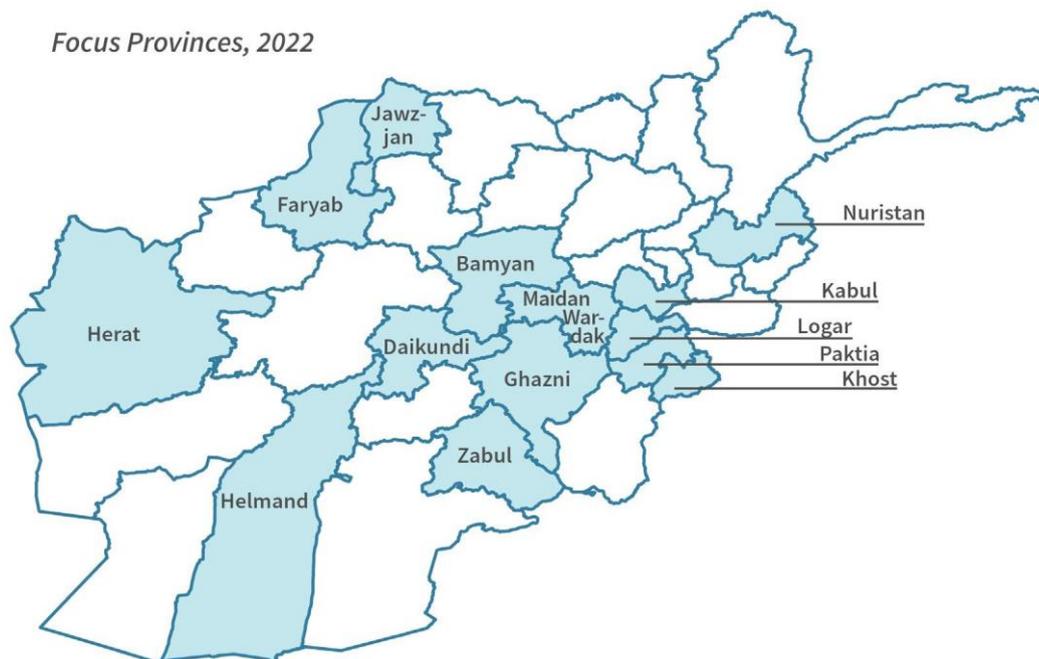
2022年11月に実施されたこの調査の範囲を定める予備調査の一環として、簡単なアンケートを用いて、13の州で14人にインタビューを行った。2023年3月から6月にかけて、16の州で35の追加インタビューを実施した。

(インタビューのリストについては付録1を参照)5つのセクションに分割されたより充実した質問票を使用して(これについては以下で詳しく説明します)。また、2022年のインタビュー対象者のうち、新たな主要な情報提供者から話を聞いた。2024年4月/5月に、5つの州に住む35人のインタビュー対象者(詳細は以下を参照)の中から無作為に選ばれた7人のインタビュー対象者に再インタビューを行った。最後に、5月下旬から6月上旬にかけて、アフガニスタンの34州すべての村民を対象に簡潔な調査を行い、34人(各州に1人ずつ)にインタビューを行い、首長がCDCを廃止するよう命じた後の状況を概観した。

調査結果は年代順に提示されている。最初のセクションでは、インタビュー対象者が2022年の議会について語ったこと、次に2023年のインタビューの結果、そして最後に2024年の再インタビューで浮き彫りになった新しい傾向を取り上げる。

2022年の村議会

図3:2022年の村議会インタビューの場所



AANのロジャー・ヘルムズによる地図、2024年。

カーブルの政権交代から約1年後の2022年11月、13の地区で行われた14回のインタビュー(下表参照)に基づき、次のような兆候が見つかりました。

全国の多くの村議会がまだ活動していたこと。インタビュー対象者に5つの質問をした。

- あなたの地域にコミュニティ/村(シューラ)評議会がありますか?
- 共和制時代と同じ評議会ですか?
- どう違うの?評議会には女性がいますか?
- 現在、議会の主な仕事は何ですか?彼らは何をしますか?
- 彼らはどのようにコミュニティを助けていますか?

都道府県/地区	シューラはありますか?	さっきと同じなの?
バーミアン/ヤカウラン	はい	はい
ダイシャ/N	はい	はい、ただしいくつかの変更があります
ファリヤーブ/パストニキヤット	はい	いいえ
ガズニ/ジャガトウ	はい	いいえ
ヘルマンド/ナド・アリ (1)	いいえ	該当なし
ヘルマンド/ナド・アリ (2)	いいえ	該当なし
ジャウザイン/カワジャ・ドゥ・コー	はい	いいえ
カーブル/シャカルダラ	はい	はい、ただしいくつかの変更があります
ホスト/ジャジ・マイダン	はい	はい、ただしいくつかの変更があります
ロガー/バラキー・バラク	はい	はい
マイダン・ワルダック/サイダバード	はい。	はい、ただしいくつかの変更があります
ヌリスタン/ワマ	はい	はい
パクティア/ズルマット	いいえ	該当なし
ザブール/カラト	いいえ	該当なし

ほとんどの村では、評議会はまだ活動していた。大多数は同じメンバーでさえいた。その中には、インタビュー対象者が報告したバーミアン州のヤカウラン地区が含まれていた。

私たちの評議会に変更はんうい。評議会のメンバーはこれまでと同じだ。男性14名、女性14名、14の村からの成員だ。評議会の長は男性で、副議長は女性だ。

しかし、他の場所では、すでに変化が目立っていた。一部の村では、評議会のメンバーが変更されたり、解任されたりしていたが、他の村では、評議会が村長に従属するようになり、村長はIEAによって承認され、場合によっては任命された。調査対象となったほとんどの村で、議会は以前の責任を剥奪され、象徴的な役割だけを演じるように格下げされていた。



カーブル州シャカルダラ地区のダニシュマンド村のコミュニティ開発評議会は、コミュニティのニーズについて話し合うために診療所に集まった。

出典:DFID - 英国国際開発省/ Flickr、2009年11月19日

カーブル州シャカルダラ地区の村議会の議長は、権力の大部分はマレクにあるが、それでも村の長老たちに相談したと述べた。

共和政時代に活動していたのと同じ評議会だが、ターリバーンが戻って来てからは、評議会の権威が衰えた。今、村の長はより強力だ。ターリバーンは村の長だけを重要視しているため、評議会には公式の職務がない。だから、私たちは村長と協力して、特に国際機関からの援助がある場合には協力する。彼は村の責任者ですが、すべての問題について長老たちに相談する。

ロガル州バラキバラク地区の村長も同様の話をしている。

共和国時代に活動していたのと同じ評議会が現在も活動している。村の[コミュニティ]開発評議会は、市民憲章プログラムに積極的に参加していたが、私たちのプログラムやプロジェクトはなかった。

過去4年間の村... 首長国は評議会を重要視していない。現在、村の長は村のすべての責任を負っている。

ガズニー州ジェガトゥ地区のジルマツ溪谷の住民は、評議会はまだ存在していたが、それは変わったと述べた。

私たちの地域には評議会があるが、以前と同じではない。権限はない。彼らは自分たちの考えを首長国に表現することさえできない。彼らは首長国の政策を尊重しなければならず、彼らに反対したり反対したりすることはできない。

この評議会の主な任務は、首長国が国連または他の国々から得た援助を受け取り、人々に分配することだ。ターリバーンと人々との間に問題があれば、このシューラはそれを解決しようとする。例えば、ターリバーンが溪谷出身の元警官や兵士を逮捕すると、シューラは人々から金を集め、ターリバーンに支払って彼を釈放してもらう。

ダイクンディ県ニリ地区のある評議会の議員は、メンバーが変わっただけでなく、メンバーの数も増え、今では全員が男性になったと私たちに語った。

この評議会には、以前は5人のメンバーしかいなかったが、今では20人を超えている。州役所は[これが何であるかは不明]、人々が前のメンバーについて不平を言ったため、評議会のメンバーを任命した。

自分の親戚に援助を分配する。新メンバーが選ばれてから4ヶ月が経った。以前は評議会に何人かの女性がいたが、今では女性は一人もいない。

他の場所では、評議会のメンバーの数が減少していたと、ファリヤーブ州のパシュトゥンコット地区の村人が説明している。

私たちの村にはシューラがあるが、この村と共和国のシューラとの間には大きな違いがある。もっと多くのメンバーがいた。頭、副、秘書、レジ係、その他多くのメンバーがいた。しかし、ターリバーンの下では、メンバーは4人だけ。マレクが頭で、モスクのイマームと他の2人のメンバーもいる...。このシューラには女性のメンバーはいない。今のところ、彼らは紛争を解決し、NGO援助の受益者を選ぶだけだ。また、タズキラス(国民IDカード)などの(公的書類の)申請も確認します。マレクは、共和政時代と同じようにこれを行う。

ホスト州ジャジ・マイダン地区の市民社会活動家は、州レベルの政府機関がほとんどの職務を担っていると述べた。

以前と同じシェーラだが、今は少し違う。共和政時代には、彼らは問題を解決する権限を持っていたが、今では権限が減っている。首長国は、そのオフィスを通じてほとんどの職務を遂行している。たとえば、援助がある場合、州の経済局がそれを配布する。開発作業があれば、農村開発局がやる、という具合だ。共和国時代、開発プロジェクトはシェーラと協議して実施された...しかし、実際には、現在開発プロジェクトはない。

いくつかの場所では、インタビューを受けた人々が、コミュニティ開発評議会が完全に解散したと報告した。ヘルマンド州ナド・アリ地区の教師は、首長国がすべての村レベルの組織を廃止したと私たちに語った。

私たちの地区にはシェーラはない。ターリバーンは、かつてのシェーラをすべて解散させた。彼らはマレクさえも取り除いた。彼らは、警察署長が将来すべての問題を処理すると言った。私たちの地区には**15**の警察管区がある。

ザーブル州カラト地区のNGO職員も、同じ経験を次のように語っている。

私たちの地域には議会はない。ターリバーンは、私たちの州のシェーラが権力を握るとすぐに解散させた。彼らは、前政権とつながっていた人々を好まない。ターリバーンは、コミュニティの長老と村のマレクを選んだ。共和国時代には、頭、副官、レジ係、秘書、その他のメンバーがいる巨大なシェーラがあった。彼らは一緒に決断を下した。彼らはプロジェクトを得るための入札にも参加したが、(今では)地域を代表するのはマレク村だけだ。

私たちの予備調査で明らかになった一貫性のない状況は、より詳細な研究が村のより詳細なビューを得るのに役立つことを示唆していた。

共和国の崩壊以来、彼らがどのように進んできたかを理解するために、より広い地理的な広がりを持つ評議会。

2023年の村議会

図4:2023年の村議会インタビューの場所



AANのロジャー・ヘルムズによる地図、2024年。

追跡調査は、2023年3月から6月にかけて16の州で実施された。これには、2022年11月からの回答者 5人への再インタビューと、新しい地区からの30人の新しいインタビュー対象者への再インタビューが含まれていた。2023年に2回、一部の回答者にインタビューを行った。

2023年のインタビュー対象者のほとんど(35人中23人)は、バダフシャーン州、バグラ州、バルフ州、クンドゥズ州、タハール州など、最もアクセスが豊富な北部と北東部の州から来ました。それでも、民族表現のバランスを保つために努力した。これらの州の中には、ウズベク人(バルフ)、ウズベク人とタジク人(タハールとバダフシャーンの一部)、またはタジク人(大多数)がかなり多数を占めている。

バダフシャーンの一部、一方、バグラとクンドゥズは民族的に混ざり合っています。私たちのインタビューでは、この地域のほとんどの村で、議会が依然として日々の村の業務の管理に積極的に関与していることがわかった。

この第2回目の面接は、予備審査よりも広範で、半構造化された質問票を使用しました(付録2を参照)。最初の 2 つのセクションでは

回答者が評議会の「職務内容」について何を考えているかなど、一般的な評議会について尋ねた。第3セクションは、理事会の代表性について、第4セクションと第5セクションは、IEAが支配するアフガニスタンにおけるその正当性と影響力について尋ねた。このセクションの調査結果は3つのセクションに示されており、アンケートのセクションを反映している。

なお、今回のアンケートでは、CDCとは呼ばずに、村の議会について尋ねた。すべての回答者は、CDCをシューラや村議会と同じ意味で使用していた。

2023年に実施されたインタビューの約3分の2は、共和国時代に設立された形式で生き残った評議会が、首長国によって象徴的な役割に縮小されたか、完全に破棄されたことを発見した。

しかし、これは注目に値するよう思われ、一部の州では、シューラのメンバーは依然として、通常はモスクで行われる投票によって選出された。村議会の議長であったクンドゥズ出身のインタビュー対象者は、彼の村のシューラは前政権時代と同じ方法で選出されていたが、今では女性の議会議員がいなくなったと語った。

それは共和国時代と同じシューラであり、メンバーは依然として人々によって選ばれる。5つのモスクがあり、各モスクは3人のシューラのメンバーを選出する。政府のプログラムが、開発農村省によって運営されていた市民憲章と呼ばれる私たちの評議会を設立した。そして、私たちの評議会のメンバーはそれ以来変わっていない。共和政時代、シューラのメンバーは男性15人、女性15人の計30人だったが、ターリバーンが政権を握ると、女性たちは停職処分となった。共和政時代には、各村議会が銀行口座を持っていて、政府やNGOからのお金がこの口座に預けられていましたが、今はそのようなことはない。少量の人道支援の量が残され、それは理事会と協力して直接[人々に]届けられる。

失業中のバルフ出身のインタビューイも、同様の話を伝えた。

これは、コロナで亡くなった1人のメンバーと、モスクの人々によって彼の代わりに選出された新しいメンバーを除いて、共和国時代に結成されたのと同じシューラだ。

いくつかの村では、シューラはその地域の民族構成を反映するように慎重に設定されており、その状態が続いていた。タカールのシューラの責任者は、彼らがまだ自分たちのコミュニティを養い、世話をしていると言った。

私の村にはシューラがあり、9つのモスクがある。シューラは6人のメンバーで構成されている。私はシューラの頭で(彼はパシュトゥーン人)、秘書はタジク人で、他の2人はウズベク人で、他の2人はパシュトゥーン人とタジク人だ。人道支援物資の配布や、料理の提供による結婚式の支援や葬儀などの社会サービスなど、さまざまな場面で村を支援している。平たく言えば、私たちはコミュニティの幸せと悲しみを助け、寄り添う。共和国が敗北したとき、私たちは社会プログラムの一部を維持できた。

しかし、他の場所では、バグランの退職した警察官が言ったように、同じ選出されたシューラがまだ存在していたが、今ではIEAによって完全に無視されている。

同じシューラが共和国時代に存在し、シューラの頭も同じだ。3年ごとに投票が行われ、同じメンバーの一部が再選されるか、新しいメンバーが彼らの代わりに選出される...しかし、彼らの役割は小さく、弱い。かつては、政府とのコミュニケーションの架け橋だった。彼らは、プロジェクトを選択し、農村開発プロジェクトなど、村のニーズに優先順位を付けるのを助けた。これらの任務はすべて、現在、ターリバーンが直接、シューラの監督なしに実行している。

例えばゴール県のいくつかの村では、国家連帯プログラムの下で設立されたシューラは存続していたが、新たに設立された村のウラマ評議会に従属していた。¹⁹ 私たちのインタビューイは言った:

共和国時代に運営されていたNSP評議会は、現在も活動している...彼らは自分たちの間で、または政府と月に一度、または2か月に一度会合する。現在、すべてのモスクに評議会があり、モスクのイマームが評議会の長であり、他の長老がそのメンバーだ。各モスクには12人の評議会メンバーがいる。この[モスク]評議会は村の評議会と連絡を取り合っており、彼らはモスクと村の問題を村の評議会と共有している。

¹⁹ 2023年9月25日、首長国のスポークスマン、ザビウッラー・ムジャヒドは、「国民と暫定政府との間の調整を強化する」ことを目的として、ウレマ評議会がすべての州に設立されたと発表した([ToloNews](#)を参照)。インタビュー対象者は、少なくとも一部の地域では、村レベルのウレマ評議会も設立されたと報告した。

しかし、ほとんどのシューラでは、会員が変わっていた。まず、私たちがインタビューしたどの地域の女性もシューラのメンバーではなかった。バダフシャーンのシューラのメンバーは次のように述べている。

私たちの村には180家族(約570人の住民)があり、頭を持つシューラ、副、その他数人のメンバーがいます。共和政時代と同じシューラだが、女性メンバーを失ったこと以外は。



女性コミュニティ開発評議会(CDC)のメンバーがカピサ州に集まる。出典:アフガニスタンプレスキットアップロード/ Flickr、2010年6月17日

彼は、その一人の女性を評議会から失った結果について詳しく説明した。

彼女は以前、女性、特に保護者のいない女性(父親、夫、成人した兄弟または息子、つまり近親者の男性の親戚)のためのサービスを手伝っていた。それは、非常に効果的な方法でサービスを提供していたが、エミレーツ航空の制限により、女性会員はいなくなった。今、援助を配布するなど、支援を行う際に、女性たちがどのような問題を抱えているのかわからず、問題が生じている。しかし、それを支える私を含め、議会は、困っているすべての家族を助けるためにあらゆる努力をしている。

他の州では、新しい状況に対応するために新しいシューラが作成された。タカール出身の4人の活動的なメンバーを持つシューラのメンバーの一人は、そのようなケースを次のように述べている。

小さな変更があった...以前は、2つの村に1つのシューラがあった...しかし、ターリバーンが支配権を握った後、村の人口が増えたので、私たちは2つのシューラに分かれた。かつてここには165家族しか住んでいなかった。しかし、ターリバーンが非パシュトゥーン族に奪われた土地で暮らすために戻った後、パキスタンから100家族が帰ってきた。

タハル州の別の村では、IEA当局が評議会の縮小を要求していたと、地元の農民は説明した。

共和国時代と同じシューラだが、少し変更が加えられている。新しいヘッドがいる。以前は6人のメンバーがいたが、現在は頭と副の2人しかいない。ターリバーンが政権を握ってから1年後、彼らは私たちに、評議会は不要で、2人ですべての仕事を任せることができると感じたため、メンバーの数を減らすように求めた。私たちは、ヘッドと副がほとんどのことを処理できると判断した。定期的な会議はもうない。彼らは必要なときに、必要なときに集まる。

タハール出身の大学教授も、彼の村では、シューラが新しいアルバブ(村長)を選出し、IEA当局に受け入れられたと語った。

昨年(2022年)の半ば頃、ターリバーンは私たちに新しいアルバブを指名するよう要求した。評議会のメンバーは[名前非公開]を選んだ、なぜなら、彼は過去にシューラを助けたことがあり、影響力があるからだ。そして、ターリバーンはこの選択を承認した。シューラは共和国時代のものとは違う。ターリバーンは、共和国のやり方や民主主義、あるいは人々がシューラ問題に関与するべきだという考えを好まない。ターリバーンは、完全な支配を望んでいるので、シューラの代わりに村に一人のアルバブだけを持つことを好むと思う。

クンドゥズ出身の別のインタビューー、村の長老は、彼の村のシューラは廃止されたが、古いシューラの長はIEAによってアルバブに任命されたと述べた。

私たちのシューラは、ハンバスタギ・ミリ・シューラ(NSP Shura)として知られていた。私たちはもう公式の地位を持っていない。ターリバーンは、ハンバスタギ・シューラについて言及するなど我々に告げた。彼らは共和国のアプローチ、フレームワークを嫌うからだ。そして名前さえも。シューラは廃止され、それに代わるアルバブが任命された。シューラの長だった人物が今はアルバブです。

同様に、クナール州では村議会はもはや活動していない。それどころか、IEAは政府と村の間のリンクとして機能する代表者を任命したと、州のジャーナリストは説明した。

ターリバーンが権力を握った後、クナール州の村議会は停止され、州内で「シューラ」または「協会」の名で活動する団体はなくなった。ターリバーンはそのような活動を許さず、人々がシューラを結成することも許していない。現在、マレクは村や州センターで活動しており、ターリバーンが任命した代表者が彼らと一緒に働いている。これらの代表者は、政府と村の間の連絡役として機能する。

2022年11月には古いシューラがローガル州にまだ存在していましたが、2023年3月に同州出身のマレク1人に再インタビューした時点で、もはや活動していなかった。彼は、彼らは今や名ばかりでだと言った。²⁰

ターリバーンが権力を握って以来、シューラは権威を失い、誰も彼らに注意を払わなくなった。現在、イマームとマレクは、シューラがかつて行っていたことを行う。また、ターリバーンは自分たちの村の代表を任命しており、彼らには権限がある。

共和国時代に存在したシューラはまだ存在しているが、以前とは違うことをしている。例えば、彼らは開発や農業プロジェクトなどに積極的だったが、今では政府は村の代表者を通じて活動している。共和政時代には、シューラメンバーは月に一度会合を開いていたが、今は会合を持たない。

彼らは村のマレクと協力しているが、公式の会議はない。誰かが問題を抱えているとき、彼は村の長のところに行く。あるいは、村のターリバーンの代表。その後、彼らは一緒に地区ガバナーのところに行き、問題を解決する。時々、地区ガバナーのオフィスの誰かが村に来て、コミュニティと会う。誰でも(会議に)参加でき、問題はない。

²⁰ 2023年11月14日のRTAの報告によると、IEAはロガル州で9つの村議회를結成した。RTAは、これらの評議会は最高指導者の命令に基づき、内務省の指示に基づき、ロガル州の治安部隊と協力して結成されたと報告した。RTAは、ロガル州のすべての村と地区で村議会が結成されると述べた。

2023年のインタビュー対象者のほぼ全員が、自分たちがまだ存在していたシュエラは、前政権時代よりも頻繁に会うことがなくなったと報告している。しかし、まだ活動している人々は、一般的に少なくとも月に1回は会合を開いていた。例えば、ザブール出身のマレクは次のように述べている。

コミュニティ開発評議会は私たちの地域で活発に活動しているが、現在開発プロジェクトがないため、それほどではない。これらは共和国時代のものと同じシュエラだ。彼らは月に2回集まり、また、必要なときにも。会議は主に人道支援物資の配布に関するものだ。時々、彼らは政府に会う。政府は人々に何でもしてほしいと思っており、シュエラはそのメッセージを[彼らに]伝える。

ガズニ出身のインタビューイは、自身もシュエラのメンバーであり、次のように述べている。

私たちは、ターリバーンが私たちに求めるたびに会議を開く。彼らが(権力の座に)就いてから、3、4回の会議があった。彼らは会議を開くことを提案している。彼らがUSHRを収集しているとき。²¹ それから、彼らは小麦、ジャガイモ、リンゴの収穫物にウシュを徴収する。

2021年8月の乗っ取り後の村議会の権限に対する認識

インタビューを受けた人のほぼ全員が、自分たちの地域のシュエラは権力と義務を剥奪されたと報告している。多くの人々は、IEAの下で利用できる財政支援が少なかったためにこれが起こったと述べた。インタビューを受けたクナールのシュエラのメンバーは、次のように述べている。

それは共和国の時代と同じシュエラだが、共和国とは異なり、利用可能な金融サービスや支援がないため、私たちの活動は減少している。農村開発局はかつて議会を支援していたが、現在は資金がなく、支援も提供していない。そこにいたスタッフの一部は変わり、ターリバーンに取って代わられた。

²¹ Ushr、共和国によって徴収されなかった収穫に対する税金。ターリバーンは、反乱の際には彼らの支配下や影響下にあった地域に、また首長国を再建してからは全国的に、ターリバーンを回収した。それは農業省によって収集され、アミールの事務所に送られる。USHRの詳細については、AANの2022年9月の特別報告書「[アフガニスタン国民への課税:ターリバーンの国内歳入追求が市民、経済、国家にとって何を意味するのか](#)」の18ページ、22ページ、23ページ、36-38ページを参照。



村の長老たちは、ヘルマンド州のナーレ・サラジ・パトロール基地でのシューラで、アフガニスタン国軍とイギリスのグルカ兵将校に会う。

出典:David Furst/AFP、2010年6月20日

しかし、いくつかの場所では、シューラはまだ政府と村の間の連絡役や交渉者として機能しており、ある程度、その伝統的な役割に似ていた。ガズニ出身のインタビューイは次のように述べている。

会議で、彼ら(ターリバーン)は、共和国時代に警察にいた人々を特定するように私たちに求めた。シューラはターリバーンに、その人々の邪魔をしないように頼んだ。ターリバーンが警察にいた人物を逮捕すれば、(シューラは)彼を釈放するために金を払った。

ターリバーンはまた、家を軍の駐屯地に変えたいと思って村を出て都市に移り住んだ者を報告するよう、シューラに求めた。彼らはまた、(使われなくなった)学校でも同じことをしたいと考えていた。シューラは、ガズニ市に移住した人々の問題を解決した。彼らは話した

ターリバーンに、これらの家屋を軍の駐屯地に転用しないよう命じた。例えば、彼らはコシャ村の[名前編集済]の家を軍の駐屯地に変えたかったのだが、多くの努力でシューラはそれを止めることができた。しかし、彼らは古いアル・ビルニ学校を軍の駐屯地に転換するつもりだ。トイレができるのを待っているのだと思う。

同様の話は、タカールのシューラのメンバーによっても語られた。

私は村人を支援するために働いてきた。例えば、数日前、9歳の少年が、タレブ人で勸善懲悪省のメンバーであるムッターのソーラーパネルをパチンコで壊してしまった。ムッターは正式な苦情を申し立てた。彼はターリバーンの支援を受けていたからだ。私たちは、その少年が若かったので、これに反対した。彼は、少年の両親は彼にパチンコを与えるべきではなかったと言った。私たちは彼を説得して、補償金を12,000アフガニから5,000アフガニ(165米ドルから65米ドル)に減らすことができた。なぜなら、家族は彼に支払う余裕がなかったからだ。

タカール出身の大学の先生は、彼の地元のシューラとアルバブが協力してコミュニティをどのように助けたかを話してくれた。

ターリバーンは最近、私たちの村の住民がマリファナを売っていたという理由で拘束した。私たちはアルバブとシューラのリーダーに助けを求めた。(住民は)ターリバーンと話をしに行った後、保釈が認められた。電気の問題もその一例だ。私たちの村には電気があるが、メーターが燃えてしまい、電気が通っていない。私たちはシューラに助けを求め、アルバブと人々の助けを得て、メーターを修理するのに十分なお金を集めた。

評議会の代表性

IEA地区当局が村議会のメンバーを最低限にまで減らしたと報告したインタビュー対象者に関しては、ほとんどの人が自分たちの代表性がなくなったと述べた。タハール州の農民は次のように述べている。

現在、メンバーは2人しかいないため、代表性はそれほど高くない。以前は、地元の選出議員に懸念について簡単に連絡できるメンバーや人々が多かった。私たちは、新しいヘッド、[名前は非公開]と副長官を信頼している。私たちが彼を新しい責任者として選んだのは、彼が私たちの問題のいくつかを解決するのを手伝ってくれると信じていたからだ。彼はターリバーンと良好な関係を築いている。

バダフシャーン州の村出身の元シューラ団員も同じように感じていた。「評議会はかつて村を代表していたが、以前は5人だったのに対し、今は2人しかいないからだ。

そして、村の規模に応じて10人のメンバー。バダフシャーン州出身の別のインタビューは、政府が任命した新制度のシューラについて、もはや完全に代表的ではなくなったとしても、依然として肯定的だった。

現在のシューラとそのメンバーは、私と私たちの村にとって有益だ。人々が彼らを選ばなかったにもかかわらず、彼らはまだ良い仕事をしている。人々はそれらに満足し、信頼している。現在の状況では、彼らは私たちを代表するのに最適な人々であり、ターリバーンと良好な関係を築くことができ、ムッラーであるがゆえに尊敬されているので、私は彼らを信頼している。人々は怖がっているので、文句を言う場所がない。以前は、評議会のメンバーは、その民族コミュニティで影響力を持つ人々でした。今、彼らはムッラーだ。提供されるわずかな人道支援は、必要とし、それを受ける権利のある人々に与えられる。人々は不満を持っておらず、安保理による人道支援の分配に満足している。

他の何人かのインタビュー対象者は、彼らのシューラはもはや女性が務めていないため、代表的ではないと指摘し、例えば、バダフシャーン州の別のシューラメンバーは次のように述べている。

私は、シューラはコミュニティを代表することができると思っていますが、もはや最善の方法ではない。なぜなら、女性を代弁する代表者がいないためだ。彼らが今抱えている困難は、女性が会議に参加できないことだ。シューラに女性メンバーが1人が2人いるといいのだが。シューラが必ずしもコミュニティを代表しているとは限らない可能性がある。女性代表は、女性が自分の問題に精通しているため、女性をよりよく支援することができる。しかし、村人たちはシューラの現在のメンバーを信頼している。彼らは、懸念を提起するための唯一の希望だ。

バルフ州出身のインタビュー対象者は、首長国が今やシューラを無視しているのは、人々との直接的な関係を確立したいからだと感じている。「ターリバーン政府は、シューラに何の関心も示さず、シューラを高く評価しない。なぜなら、ターリバーン政府は直接のことを好むからだ。代表者やシューラのメンバーとの[取引]を通じて人々と連絡を取ること…。なぜなら、ターリバーンは紛争中、私たちの地域にいなかったし、私たちの地域の人々に何の影響も及ぼさなかったからだ」彼は、古いシューラが代表的であったのは、コミュニティが自分たちの階級からメンバーを選出していたからだと述べた。

彼らは、共和国時代に訓練を受けた経験豊富で、専門的で知識豊富な人々だった。メンバーが人々の中から選ばれたため代表的だった。彼らには家族、親戚、友人がいる。

そして、彼らは人々が利益を得ることができるように、彼らの能力を最大限に発揮してコミュニティを代表しなければならなかった。シューラのメンバーは良い代表だった。なぜなら、彼らは正直で、影響力があり、人々によって選ばれたからだ。各メンバーは30~40家族を代表していたが、現在の状況では、約250家族を代表しているのは1人か2人だけだ。

他の何人かのインタビュー対象者は、人々がそのメンバーを選出し、村、政府、援助組織の架け橋であるため、彼らのシューラを代表として賞賛した。バルフ出身のインタビューーは次のように説明した。

私たちのシューラは、人々がそのメンバーを選ぶので、村を表していると思う。彼らは信頼でき、知識が豊富だ。彼らは政府や援助機関についてよく理解している。彼らは共和国時代に農村リハビリテーション開発省によって訓練を受けており、経験豊富だ。私たちの村では、シューラは人々の良い代表であり、現在、これ以上の選択肢はないと信じている。

ザブル州出身のインタビューーは、彼のシューラが村と外の世界をつなぐ役割を果たしていると説明したが、現在のシューラが彼の村を代表しているかどうかについては答えを避けた。

地元の人々は、シューラがその地域で活動していなかったら、自分たちの問題を政府に伝えることができなかった。それは、コミュニティの問題と要求を政府に持っていき、彼らの問題に対処するように政府に求めるシューラだ。彼らは、外部から来た人、例えばNGOや政府など、シューラのメンバーと接触する人々にとって、公式の基準点のようなものだ。

カーブル州出身のインタビューーは、選挙で選ばれたシューラは任命されたマレクよりも優れている、なぜなら多くの人々にとって、シューラを持つことは汚職が少ないことを意味するからだと述べた。

マレクはただ一人の人間であり、人々が抱えているすべての問題に注意を向けることはできない。(私たちの)シューラは、援助の分配における腐敗を防いできた。もしシューラがなかったら、マレクはそれを自分の部族や親戚に分配するかもしれない。このシューラは、各村の全員に平等に援助を配布している。私は、人々に選ばれ、差別なく人々の問題に取り組む正直な人は、誰にとっても受け入れられ、最高の代表者であると信じている。

タカール州出身のインタビュー対象者は、彼の村では、コミュニティが選出したシューラがIEAが任命したウレマ・シューラの影に隠れていたと語った。

私たちはシュウラのメンバーを信頼し、彼らが最善を尽くしていることを知っているが、現政権はそれを尊重していない。彼らは、人々によって人民のために選ばれたそのメンバーを嫌っています。[このアプローチでは]落胆します。村議会は 私たちをうまく代表しているが、現政権は自分たちが選んだウレマ・シュウラを支持しているため、シュウラよりも彼らの苦情に注意を払っている。シュウラには有能な代表者がおり、私たちは彼らを信頼し、ウレマ・シュウラよりも好んでいる。

彼は、二つのシュウラの違いを説明した。

村議会は、人道支援の配布、困っている人々の特定、紛争の解決、農業用水の分配などの法的問題の支援などのサービスを提供している。または家畜によって引き起こされた農地への損害は、相互の合意または罰金のいずれかによって解決される。ウレマ・シュウラは、家族紛争、夫婦間の夫婦紛争、相続紛争、性犯罪[種類は特定せず]、強盗など、シャリーア法に基づく法的問題の解決を支援する。村議会(のメンバー)はコミュニティの出身で、私たちが頼むと、彼らは喜んで同行し、支援を提供してくれる。私たちは彼らと自由かつオープンに意見を共有することができる。しかし、ウレマ・シュウラは尊敬される個人であり、私たちは自分の意見や心配を自由に表現することはできない。

ラグマン州のあるインタビューイは、村で影響力のある人物の役割と、そのような人物がシュウラではなく、異なる利益の間の架け橋となり得ることを指摘した。

私が所属しているシュウラは、人々をよく代表している。私たちの地域で最も影響力のある人物は[名前非公開]で、彼は現在の政府と良好な関係を築いており、前の政府とも良好な関係を持っていた。彼はすべての問題で人々に相談する。彼は、その地区で活動しているすべてのシュウラのメンバーに会い、政府のメッセージを彼らに伝える。彼は人々をよく代表している。人々は彼を信頼しているし、私も彼を信頼しているし、長老たちもウレマを信頼している。[影響力のある人物]は常に人々の問題を公平に解決する。

評議会の影響と正当性

シューラについての不満や、シューラに関連すると思われることについて何か意見を述べる
ことができるかと尋ねられたとき、2023年のインタビュー対象者のほとんどが、村の問題に関
する懸念についてシューラに簡単に話すことができると答えた。シューラに問題があるのな
ら、政府に苦情を申し立てるのは賢明ではないと提案する人もいた。例えば、シューラのメ
ンバーであるクンドゥズ出身のインタビューイは、次のように述べている。

人々は現在のシューラメンバーに満足しているが...もしメンバーが私たち(コミュニティ)
の利益を代表できなければ、村の人々と何をすべきかについて話し合った。もし現在のメ
ンバーよりも優れた代表者がいたら、それについても議論するだろう。再選を呼びかけて
新しいメンバーを導入することもできたが、まだそうしていないので、特に現政権の下で
は、それがどれほど効果的かはわからない。ターリバーンがどう反応するかはわからない
し、もし私たちがシューラについて文句を言ったら、彼らはそれを完全に解消するかも
しれない。

彼は、評議会は人々に影響力を持っているが、実際の権力は首長国にあると述べた。

評議会はコミュニティ内で影響力を持っている。人々が彼らを信頼し、信じているの
は、彼らが共和国以来、人々のために働いてきたからだ。彼らは彼らの問題を支援し、紛
争を解決し、水や電気などで抱えている問題について適切な当局に連絡した。彼らは依
然として人々に対して影響力を持っているが、一般的には、ターリバーンの命令に対して
行動したり抵抗したりする権限を持っていない。例えば、女性シューラ隊員の禁止を変え
ることはできず、ターリバーンが彼女たちに[実際には政府の]問題に対処するよう命
じたときも、彼らは無力だ。権力を固定するなど、人々からお金を集めることによって。
評議会には、これらの決定のいずれかに異議を唱える権限がない。ですから、真の権力は
ターリバーンにあると思う。なぜなら、シューラはターリバーンからのいかなる命令にも
異議を唱えることができず、それに従わなければならないからだ。

バルフ出身のインタビューイも同様の認識を持っていた。彼は、彼の村のシューラ団員は共和
国時代にもっと影響力があったと述べた。

しかし、今では彼らの力は少なくなっている。現在、サービスを提供できなくなっている。
なぜなら、それらのサービスが利用できないためです。ターリバーン政府は何も提供してい
ない。

農村開発プロジェクトや国際援助の一環としてのサービスが減少している。

それにもかかわらず、彼は、評議会のメンバーを、外部とのつながりを持ち、人々の問題を解決できる影響力のある知識豊富な個人と見なしていた。

私たちの村では、首長や副市長を含む議会のメンバーが影響力を持っている。彼らは長い間シューラで働き、専門知識と能力を身につけてきた。彼らは外国のグループや慈善団体とどのように関わるかを知っており、問題を解決するために人々と協力してきた。



当時、ザブール州シャージョイ地区の地区知事だったムハンマド・サディクは、シューラ会議の後に地元の村人たちと会う。

出典:米海軍 via Resolute Support Media/Flickr, 17 August 2011

また、バダフシャーン出身のインタビューーのように、シューラは一般的に以前と同じくらい影響力があると認識されており、コミュニティへの支援を交渉することができたため、問題を解決できる正当な権威であると考えている人もいた。

人々はすべての問題や苦情をシェーラに報告して、助けを求めることができるようにする。例えば、村で結婚式があった。式が夜だったので、シェーラに発電機をお願いした。今日では、経済があまりにも悪く、家族に発電機を提供することは問題外だったため、議会は代わりに発電機を借りて家族の結婚式を支援することを決定した。

バダフシャー出身の別のインタビューイも同様の説明を共有し、人々は政府よりも村議会が問題を解決することを好むと述べた。

私たちの人々は、村議会がすべての問題を解決すべきだと信じている。なぜなら、彼らは問題が政府に付託されることを望んでいないからだ。彼らは、どんな紛争でも双方に屈辱を与え、拷問し、罰金を科すターリバーンを恐れている。私たちの村では、紛争はターリバーンに付託されるのではなく、評議会によって解決される。

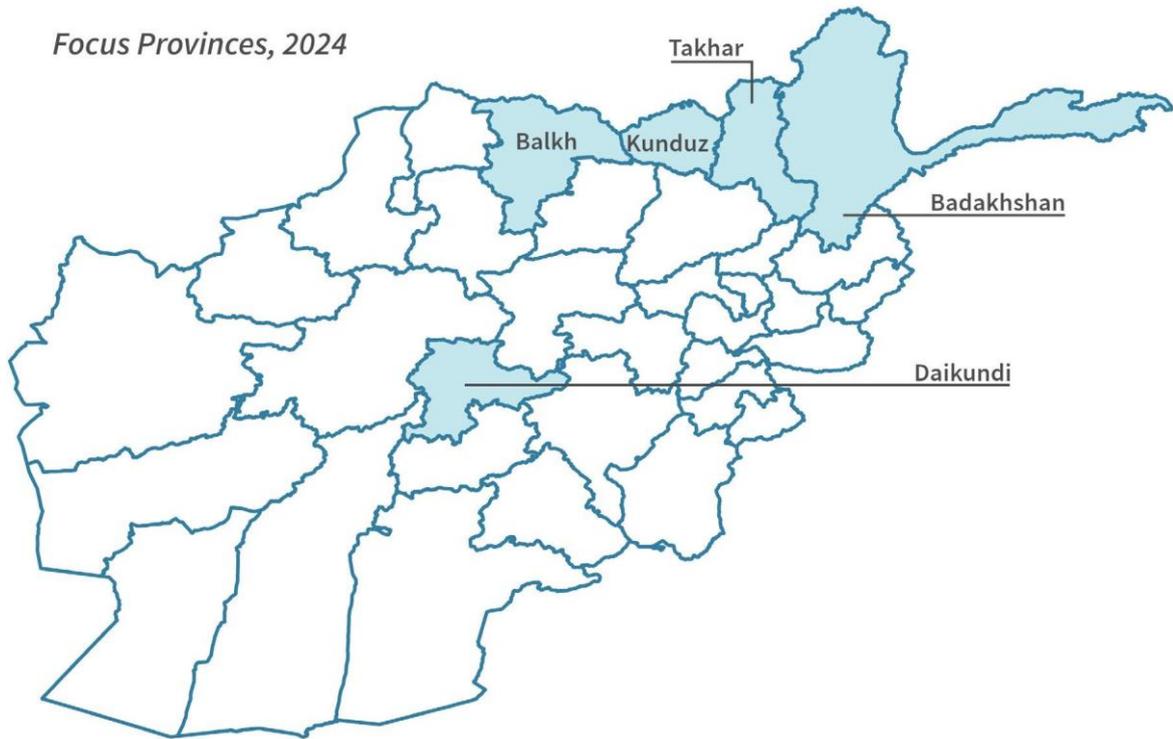
彼はまた、村人とIEAの代表者との間の問題を村議会が調停した話を共有した。

ターリバーンは、共和国の下で武器を持っていた特定の個人に、武器を引き渡すよう命じた。評議会は引き渡しを仲介し、ターリバーンに彼らを虐待しないよう強く求めた。共和国の地元警察(ALP)の元長官は彼の武器を引き渡したが、ターリバーンは彼が隠し武器を持っていると疑って彼を逮捕した。彼は、評議会が彼に保証を提供した後、刑務所から釈放された。

議論の余地なく、現在も活動している評議会とそのメンバーは、特に2021年以前にターリバーンが存在感や強力な支持基盤を持っていなかった地域では、影響力があり正当な機関と見なされている。評議会が縮小され、希薄化されている場所では、かつてのシェーラのメンバーは依然として影響力のある人物と見なされ、政府や外部機関との調停を任されていることがよくある。

2024年の村議会

図5:2024年の村議会インタビューの場所



AANのロジャー・ヘルムズによる地図、2024年。

2024年4月下旬から5月上旬にかけて、2023年に話を聞いた主要な情報提供者のうち7人に再インタビューを行った。彼らは無作為に選ばれ、5つの州(バダフシャン、タカール、クンドゥズ、バルフ、ダイクンディ)から選ばれた。この7人は、2023年に政権交代にもかかわらず村議会が変わらない、つまり市民憲章またはNSPの下で設立されたと答えたインタビュー対象者の3分の2の中から無作為に選ばれた。私たちは彼らに、最後に話してから彼らの村で何が変わったのか、そしてその理由を尋ねた。

インタビューを受けたバダフシ族の1人は、2023年5月に彼の村にも同じシューラが存在すると私たちに話してくれたが、IEAが作ったのは「以前よりも活動が減った」ということだ。シューラに変更はなく、いかなる種類の援助も提供しなかったが、「彼らはシューラの問題にも介入していない」。彼はこれを次のように感じた。

ターリバーンが支配権を握る前は、私たちの地域にはタレブはおらず、村の人々の間には支持者も影響力もなかった。

人々の間で好ましくないイメージを持ち、彼らに影響を与える能力を失いたくないので、彼らはシューラが人々の間で影響力を持ち、そのメンバーが影響力を持っているので、彼らはシューラに干渉しない。

しかし、1年後の2024年5月、シューラのメンバーはまだいるものの、シューラは完全に活動しなくなってしまうと彼は言った。

ターリバーンは、評議会はバダフシャーンの農村開発局の下で公式の地位を持っていないと述べた。市民憲章のシューラは彼らにとって正当ではない。今日、市議会のメンバーは日常生活や仕事に夢中になっている。しかし、評議会が活動していないにもかかわらず、人々の間で影響力と尊敬を持つ特定のメンバーは、限られた社会的提供を続けていない。村の文化的規範に応じたサービス、カウンセリング、支援。礼拝は以前とは違って、正式な集会やシューラの集まりはない。人々が助けを必要としているとき、彼らは影響力と経験を持つ仲間の村人として、個別にアドバイスや援助を求める。彼らは公式の地位を持っていないので、社会問題以外の問題を支援する能力や能力を持っていない。なぜターリバーンがシューラを認めないと言ったのか、私にはわからない。もしかしたら、彼らはそれが共和国や民主主義の名残だと思っているのかもしれない。

タハール州のある村のシューラの長は、2023年に私たちに、彼のシューラは依然として人々の間で影響力を持っているが、それができることに関しては最低限にまで縮小されたと私たちに語っていた。

ターリバーンはこれまでのところ、シューラの決定に干渉していないが、マドラサの学生など、一般市民から金銭を集めるよう求めている。共和国と比べると、私たちの行動能力は約90%低下した。なぜなら、紛争、村の清掃、援助の分配など、村の人々が直面する社会問題だけを支援するようになり、共和国時代のように農村開発のためのプロジェクトや資金がなくなったからだ。それにもかかわらず、シューラはムッラーよりも人々の間で大きな影響力を持っている、なぜならそれはより多くのメンバーを持ち、その[メンバー]はムッラーとは異なり、人々によって選ばれるからです。

1年後、彼は自分の村にはまだ評議会が存在していたが、「人道支援を受ける資格のある人々のリストを提供するのを支援することを除けば、私たちの以前の活動はすべてアルバブに委ねられている」と述べた。彼は続けて言った。

アルバブはターリバーンの諜報機関によって特定され、任命され、以前に行われていたコミュニティを支援するすべての活動を監督する任務を負っている。

法的事項の取り扱いを含め、評議会によってアウト。また、その地域の治安関連情報を毎週または毎月、ターリバーン諜報機関に報告する。

タハール州の別の村では、住民が私たちに語ったところによると、2023年の5人組のシューラは無傷でやや活発で、「人々からお金を集めて道路の修理や停電などの限られた問題に取り組み、援助物資の配達を支援し、紛争の解決などを行っている」という。2024年5月には、彼らの活動リストは「要請に応じて人道支援を受ける資格のある人々のリストを提供するのに助ける」だけに縮小したと彼は述べた。

評議会のメンバーの数が削減された。ターリバーンは、人道支援の対象者リストに親族を追加したという疑惑など、さまざまな理由で数人のシューラメンバーを解雇した。しかし、彼らは解雇されたメンバーを交代させていない。それどころか、彼らは議会の仕事をするためにアルバブを任命した。彼らは私たちの評議会メンバーのほとんど全員を彼と入れ替えた。

クンドゥズ州のある村のシューラのメンバーは、2023年に、彼の評議会は洪水被害の修復、下水の浄化、変圧器の修理などの問題で新政府からの支援を積極的に求めているが、IEAには資金が不足していると言われ、人々から資金を集めて自分たちで処理した方がいいとアドバイスされたと述べた。2024年になっても、シューラのメンバーは、これらの問題について新政府からの支援を求めている。

1ヶ月前、すべての評議会の長は、州の中心部にある農村開発局に行き、これらの評議会の運命について当局者と会った。私たちは、その議会がまだ公式の地位を持っているかどうか尋ねた。これに対して、彼らはまだ省から公式の手紙を受け取っていないと言った。ターリバーン指導部は、クンドゥズ州の市民憲章評議会を廃止する。[当局者は私たちに語った]:今のところ、省がこれを決定するまで評議会の活動は停止されており、人々のために、私たちは現在、アルバブを利用している。クンドゥズの農村開発局の責任者は、議会はまだ登録されており、外国のドナー機関によって公式に認められているため、公式に帳簿から廃止されていないと述べた。[彼らは言った]:ドナー機関が同意するまで、私たちは物事を同じままにしなければならない。

インタビューによると、クンドゥズ州の議会の約90パーセントは名目上のみ存在し、「実際には麻痺し、活動していない」という。

大きな村では、シューラはアルバブに取って代わられた。小さな村では、元シューラ団員の一部がアルバブに任命されたり、ターリバーンが任命した新しいアルバブと協力したりしている。



ヘラート州でのコミュニティ開発評議会(CDC)の会議。出典:National Solidarity Programme/Flickr、2010年11月15日

2023年に、自分たちのシューラは共和国の時代から変わらないと答え、再インタビューした他の3人のインタビュー対象者は、バルフ、バダフシャー、ダイクンディの出身で、全員が評議会がまだ活動していると答えていた。

しかし、ダイクンディ出身のインタビューイは、彼の評議会は共和国時代よりも活動が弱まっており、現在地元で権力を握っている人々からも無視されていると述べた。

地方自治体は、地方議会の役割にあまり注意を払っていない。彼らの地位は弱まり、力は減少した。評議会は、長老、若者、ウレマで構成されており、地方自治体は評議会を無視し、場合によっては、彼らの権限のほとんどがウレマ評議会に移管されている。

アミールの命令によるCDCの解散

2024年5月23日、農村復興開発省は、IEAの最高指導者であるムラー・ヒバトゥッラー・アクンザダからの口頭での指示を引用して、首長がコミュニティ開発評議会を解散したと発表した。

1445年11月14日付けの書簡番号14869 AH(2024年5月23日)は、農村復興開発省から経済省に次のように述べている。

アミール・アル・ムニン(彼を神が彼を守ってくださいますように)の口頭での助言に基づき、すべてのコミュニティ開発評議会はここに解散する。農村復興開発省は、これらのプロジェクトが中途半端に完了しているか、完了しているかに関係なく、すべてのプロジェクトを終了および終了する責任を議会に負わせる。

書簡はまた、国内および国際組織とNGOの調整を改善するためのガイドラインに以下を追加すると述べた。

プロジェクトが実施されているセクターの経済行政は、その地域で実施されるプロジェクトを決定する際に、尊敬されるウレマ評議会の意見を考慮に入れるべきだ。

この命令(非公式の翻訳は付属書3で読むことができます)に照らして、2024年5月26日から6月2日にかけて、全34州で簡潔な調査を実施し、アクセスできた無作為に選ばれた村で34人(州ごとに1人)にインタビューした。私たちは、次の「はい」または「いいえ」の質問をした。

- 一. あなたの村にはシューラがありますか?イエスかノーか教えてください
- 二. シューラには女性はいますか?イエスかノーか教えてください
- 三. あなたの村にはIEAが承認した/任命された首長がいますか?イエスかノーか教えてください
- 四. あなたの村にはIEAが設立した村のウレマ評議会がありますか?イエスかノーか教えてください

その結果、CDCを廃止する法令は、調査が終了した時点ではまだ村のレベルに達していないことが示された。全34村で、取材時点ではまだ村議会が存在していた。実際、私たちは意図的に6月2日にいくつかのインタビューを行い、インタビュー対象者にこの法令について知っているかどうか尋ねた。全員が、まだ公式に知らされていないと答えた。

都道府県/地区	村議会	シュエラの女性たち	IEA承認のmalek	IEA設立の村落ウレマ協議会
1. バダフシャー	はい	いいえ	はい	いいえ
2. バドギス/ムクル	はい	いいえ	はい	いいえ
3. バグラン/アンダラブ	はい	いいえ	はい	はい
4. バルフ/デハダディ	はい	いいえ	はい	いいえ
5. バーミアン/パンジャブ	はい	はい	いいえ	いいえ
6. ダイグループ/ニリ	はい	はい	はい	はい
7. ファラー/バラブローク	はい	いいえ	いいえ	いいえ
8. ファリヤーブ/アルマール	はい	いいえ	はい	いいえ
9. ガズニ/ジェガトウ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
10. ホーム/トラク	はい	はい	いいえ	いいえ
11. ヘルマンド/ナド・アリ	はい	いいえ	はい	いいえ
12. ヘラート/福音	はい	いいえ	はい	いいえ
13. Jawzjan Aqcha	はい	いいえ	はい	いいえ
14. カーブル/シャカルダラ	はい	いいえ	はい	いいえ
15. カンダハル/アルガンダブ	はい	いいえ	はい	いいえ
16. カピサ/ヒサイェ・アウル・コヒスタン	はい	いいえ	はい	いいえ
17. ホスト/ジャジ・マイダン	はい	いいえ	はい	いいえ
18. クナール/ナラン	はい	いいえ	はい	いいえ
19. クンドゥズ/カナバード	はい	いいえ	はい	はい
20. ラグマン/カルガヒ	はい	いいえ	はい	いいえ
21. ロガー/バラキーバラク	はい	いいえ	はい	いいえ
22. ナンガルハール/アチン	はい	いいえ	はい	いいえ
23. ニムルズ/チャハルブルジャク	はい	いいえ	はい	はい
24. ヌリスタン/ヌルゲラム	はい	いいえ	はい	いいえ
25. パクティア/ズルマット	はい	いいえ	はい	いいえ
26. パクティカ/ウルグン	はい	いいえ	いいえ	いいえ
27. パンジシル/ルカ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
28. パルワン/ジャバルスラジ	はい	いいえ	はい	はい
29. サマンガン/フラムとサルバーグ	はい	いいえ	はい	はい
30. スールのプール/バルカブ	はい	いいえ	はい	はい
31. タカール/ラスタク	はい	いいえ	はい	いいえ
32. ウルズガン/デラウド	はい	いいえ	はい	いいえ
33. ワルダック/サイダバード	はい	いいえ	いいえ	いいえ
34. ザブル/シャー・ジョイ	はい	いいえ	はい	いいえ

7つはIEAが設立した村のウレマ評議会を持っており、27はインタビューの時点でIEAが承認または任命した首長を持っており、3つはまだ女性の シューラを持っていた。



カーブル州シャカルダラ地区のダニシュマンド村にある、国家連帯プログラムの支援を受けて設立された地域診療所で、医師が患者の診察をしている。

出典:DFID - 英国国際開発省/ Flickr、2010年2月3日

新しい法令が村にどのような影響を与えるのか、誰が権力と影響力を持っているのか、あるいは援助が届けられるのか、またどのように届けられるのか、という点について結論を出すのは時期尚早だ。

少なくとも今のところ、私たちの調査結果は、新しい指示が地域レベルで吸収されていないことを示している。

結論

私たちのフィールド調査からの証拠は、影響力と正当性を持つ生来の制度としての村落議会が新しい時代に生き残り、共和国時代に導入された選挙のいくつかの方法とシステムが流用され、承認されたことを示唆している。インタビュー対象者の説明は、「古い」コミュニティの自己管理手段と現代のコミュニティの自己管理手段を組み合わせたハイブリッドに似ていた。生き残ったシューラは、村の長に縮小されたり、村長に取って代わられたりすることはなかったが、コミュニティと外部の利害関係者(政府やNGOが援助を提供したり、他の方法で支援したり)との間の連絡役として見られ、使用されていた。



子どもたちは、National Solidarity Project(NSP)の支援を受けてコミュニティが建設した井戸から水を集めています(場所は不明)。

出典:National Solidarity Programme/Flickr、2013年4月2日

しかし、浮かび上がった一般的な状況は、村の評議会がゆっくりと衰退し、首長(マレクまたはアルバブ)やウラマ評議会などの個人またはグループに有利になるというものだった。

コミュニティではなく、状態。議会を廃止する法令が制定される前から、首長国の意図は、時間の経過とともに議会を縮小し、疎外し、多くの場合、彼らをほとんど活動させない形で認識できた。

これは、2024年5月23日に首長国連邦の最高指導者がコミュニティ開発評議会を禁止する前からそうだった。

女性メンバーを維持しているシューラはほとんどない。しかし、インタビュー対象者の半数以上は、シューラが女性に関する問題を確認して対処できないなどの実際的な理由だけでも、シューラに女性がいないことを強く感じていた。これまでの研究と同様に、アフガニスタンの農村部が女性問題に関してターリバーンと同じくらい保守的であると仮定するのは間違っているかもしれないし、CDCに女性を参加させなければならなかった経験が永続的な影響を与えているかもしれない。²²

インタビューを受けた人の中には、IEDが任命または承認した村の長は、コミュニティの代表ではなく、国家の延長として認識されていると報告した人もいた。これは、過去に感じていたコミュニティに門戸を開く可能性がある。彼らの代表者によって保護され、伝統的にコミュニティの問題に干渉することができなかった外部のアクターによって危険を感じる。特に、多くのインタビュー対象者のうち、新たに任命された村長は代表性がなく、最も代表性は信頼性、知識、経験と同義であると見られていた。

過去100年間、シューラは多くの変化を遂げてきたが、ひとつ変わらぬ特徴は、常に外部からの影響からコミュニティを守ってきたことだ。今、政府の下で、自らを保護者に見なしている伝統的な価値観を持ちながらも、権威主義的でありながら、コミュニティの防衛の最後のローカルラインが脅威にさらされている。政府が村をどのように扱うかという点で、シューラの重要性を減らす傾向はすでに明らかだったが、議会に対する州の敵意は、CDCを禁止する命令で具体化している。私たちは、権力関係の別の再発明を目の当たりにしている可能性が非常に高い。それは、村の自治と交差し、村長と地元のウレマ評議会がより大きな影響力を持つようになるだろう。

しかし、アミールの指令がアフガニスタンの村議会の棺桶に最後の釘を打つものであるかどうかは、ありそうにない。アフガニスタンの農村部では、シューラが生き残っている

²² 2021年7月の報告書「[希望と恐怖の間:アフガニスタンの農村部の女性が平和と戦争について語る](#)」は、アフガニスタンの田舎に住む女性たちから意見を聞き、「アフガニスタンの女性にとってより大きな主体性を求める夢は、公に発言できる人々だけの領域ではない」と結論付けている。

彼らの村の生活の中心性のために時の試練。それらはソビエトの占領やイスラム共和国から始まったものではなく、IEAの廃止命令によって存在しなくなるかどうかは非常に疑わしい。アフガニスタンの村々が最終的にどのように新たな状況に対応するか、そしてコミュニティに奉仕し保護する地方レベルの構造がどのように再構築されるかは予見できない。



ラグマン州カルガイ地区にあるマイクロパワー施設で、National Solidarity Programme(NSP)の支援を受けて建設された。

出典:National Solidarity Programme/Flickr、2010年6月17日

CDCに関するアミール・ヒバトゥッラーの指示を伝える書簡は簡潔だったが、その意図は明確で、援助の提供をウレマ評議会と調整し、村の評議会の役割を完全に脇に追いやる試みだった。NGO、世界銀行、国連機関は、CDCとの援助提供の調整を前提としてきたが、問題に直面する可能性がある。村議会は、人々と直接協力する仕組みであり、西側のドナーが首長国と協力することに消極的であることを考えると、特に重要な役割を担っている。開発作業は少ないが。

NSPと市民憲章の下でCDCと連携して実施されている類のものは、多くのインタビュー対象者が、人道支援が村のシューラと調整されたと報告しており、特に困っている地元の人々を優先するための受益者リストの確立においてそうであった。首長国と援助業界の関係は、すでに陰悪なものとなっていた。(2023年7月のレポートを参照) これについては、[Sabawoon Samim and Ashley Jackson, 'Taleban Perceptions of Aid: Conspiracy, corruption and miscommunication'](#) を参照のころ。この最新の打撃を乗り越える多くの援助関係者が公平な地域援助の分配を確保するためのメカニズムと考えていたことに対しては、慎重なフットワークが必要だ。

未来がどうなるにせよ、歴史が何らかの指標となるならば、シューラはアフガニスタンの社会構造の不可欠な部分として、主要な地方の自己組織化および自治構造として再浮上するだろう。アミールの禁止令の最初の衝撃が薄れれば、私たちは、村のシューラが、以前と同様に、新しい旗の下で、そしておそらく再定義された地平線で自分自身を再生させている姿を見るかもしれない。

ロクサーナ・シャプールとケイト・クラークによる編集
デザインとレイアウト: Žolt Kovač

表紙写真: ファラー州のブージ・バスト峠で地元のシューラ中に米海兵隊とアフガニスタン国軍と話すアフガニスタンの長老たち。

出典: David Furst/AFP, 10 October 2009

この研究は、米国平和研究所(USIP)によって資金提供されています。

付録1 - インタビュー一覧表(2023年)

	州	区	職業	エスニシティ	インタビュー日
1.	バダフシャン	ジャーム	村議会の長	タジク	18.5.23
2.	バダフシャン	ケシュム	村人	タジク	23.5.23
3.	バダフシャン	ケシュム	シュースラのメンバー	タジク	23.5.23
4.	バダフシャン	シュハイナン	シュースラの元メンバー	タジク-イスマイリア	20.5.23
5.	バダフシャン	ヤワン	元軍人	タジク	26.6.23
6.	バグラ	プルエクムリ	退職した警察官	タジク	4.6.23
7.	バルフ	デダディ	部族の長老とマレク	パシュトゥーン人	17.5.23
8.	バルフ	デダディ	ホテル리어	タジク	25.5.23
9.	バルフ	マザリシャリフ	シュースラのメンバー	ウズベク語	17.6.23
10.	バルフ	マザリシャリフ	失業者	アラブ・タジク語	16.6.23
11.	ダイクンディ	ニリ	シュースラの頭	ハザラ語	5.4.23
12.	ガズニ	ラシダン	シュースラのメンバー	サダト	13.3.23
13.	ゴール	フェルズ・コー	市民 活動家	タジク	18.5.23
14.	ヘルマンド	ナワミッシュ	トリブルの長老	ハザラ語	11.5.23
15.	ヘラート	インジル	トリブルの長老	タジク	25.5.23
16.	カーブル	シャカルダラ	先生	タジク	29.3.23
17.	ゴースト	ジャジ・マイダン	市民 活動家	パシュトゥーン人	28.3.23
18.	クナール	ナラン・オー・バデル	部族の長老	パシュトゥーン人	28.5.23
19.	クナール	ワタプール	ジャーナリスト	パシュトゥーン人	16.5.23
20.	クンドゥズ	カナバード	村議会の長 とマレク	タジク	13.6.23
21.	クンドゥズ	カナバード	村の長老	パシュトゥーン人	27.6.23
22.	クンドゥズ	クンドゥズ市	シュースラのメンバー	タジク	20.5.23
23.	ラグマン	カルガイ	シュースラの頭	パシュトゥーン人	12.5.23
24.	ログル	バルキ・バラク	マレク	パシュトゥーン人	30.3.23
25.	タカール	クワジャ・バハウディン	シュースラのメンバー	パシュトゥーン人	20.5.23
26.	タカール	クワジャ・バハウディン	農家	パシュトゥーン人	20.5.23
27.	タカール	ルスタク	影響力のある 村人	ウズベク語	20.5.23
28.	タカール	ルスタク	退職者	タジク	21.5.23
29.	タカール	ルスタク	大学 教授	ウズベク語	21.5.23
30.	タカール	ルスタク	シュースラの頭	パシュトゥーン人	21.5.23

51 村議会の運命

				人	
31.	タカール	ルスタク	村人	タジク	21.5.23
32.	タカール	ルスタク	シューラの頭	タジク	22.5.23
33.	タカール	ルスタク	学校の先生	ウズベク語	20.5.23
34.	タカール	ニュー キャッスル	農家	パシュトゥーン 人	20.5.23
35.	ザブル	カラート	マレク	パシュトゥーン 人	20.5.23

付録2 - アンケート、2023年

インタビュアー：

インタビュー日：

電話または対面で：

インタビュイーの氏名と年齢：

エスニシティ：

都道府県、地区：

仕事：

面接官への指導：これらは自由回答形式の質問であり、必要と思われるだけ多くのフォローアップの質問をすることができます。として取得してみてください

できるだけ答えを記入し、各質問についてできるだけ多くの詳細を取得してみてください。

評議会について：

- 一. あなたの地域にコミュニティ/村(シューラ)評議会はありますか？
- 二. 共和制時代と同じ評議会ですか？
- 三. 覚えている限り、それは共和国以前と同じ評議会ですか？
- 四. 彼らはどのくらいの頻度で会いますか？
- 五. 他の村人たちは彼らの会議に出席できますか？

評議会の職務内容：

- 六. 現在、議会の主な仕事は何ですか？彼らは何をしますか？
- 七. 彼らはどれだけコミュニティを助けることができるのか？
- 八. あなたは個人的にあなたの議会に助けを求めますか？あなたは彼らにどんな助けを求めますか？

評議会の代表性：

- 九. あなたの意見では、議会はあなたの村を代表していますか？なぜノー/イエスなのか？
- 十. あなたの意見や知識では、誰が本当にあなたの村を代表していますか？
- 十一. あなたを最もよく代表するのは誰だと思えますか？

評議会の社会的地位:

- 十二. この評議会はどのくらい影響力があると思いますか?
- 十三. あなたの村で本当に影響力を持っているのは誰ですか?
- 十四. 彼らはあなたがあなたの生活の質を向上させるのを助けることができますか? どう。

評議会の正当性:

- 十五. あなたの利益が代表されていないとき、あなたは何ができますか?
- 十六. 評議会は、あなたが何を必要としているか、または何を伝えるためのメカニズムまたは機会ですか とやかく言う。
- 十七. やったことがありますか?
- 十八. あなたは持っている誰か知っていますか?

付属書3 – 地域開発協議会を廃止する農村復興開発省からの書簡

以下は、2024年5月23日付けでパシュトー語で行われた、すべてのコミュニティ開発評議会を解散するように最高指導者が口頭で指示した農村復興開発大臣からの2通の手紙のコピーで、AANの非公式翻訳が続いている。



非公式のAAN翻訳

Ministry of Rural Rehabilitation and Development 大臣

のオフィスから

レター番号**14878**

日付: **1445/11/14** [イスラム暦の日付は2024年5月23日に対応する]

インストラクション レター

農村復興開発省のすべての中央および地方事務所へ

アッサラム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー・ワ・バラカトゥフ!

神がシャリーアに関連するすべての事柄において私たちを団結させてくださいますように。

トピック: コミュニティ開発評議会の解散

アミール・アル・ムニン(彼を守ってくださいますように)の口頭での助言に基づいて、すべてのコミュニティ開発評議会はここに解散する。

農村復興開発省は、これらのプロジェクトが中途半端に完了しているか、完了しているかに関係なく、すべてのプロジェクトを終了および終了する責任を議会に負わせる。同様に、農村復興開発省の提案と名誉首相の承認を得て、国内外の組織やNGOの活動の調整を改善するためのガイドラインの第4条と第7行に、以下の内容が追加される。

「プロジェクトが実施されているセクターの経済行政は、その地域で実施されるプロジェクトを決定する際に、尊敬されるウレマ評議会の意見を考慮に入れるべきである。」

ガイドラインは、この手紙と一緒にあなたに送られている。貴方の活動がこれらのガイドラインと一致していることを確認せよ。

ワ・アル・サラーム

アル・ハッジ・ムハンマド・ユヌス・アクンザダ リハビリテーション・農村開発大臣代行



امارت اسلامی افغانستان
وزارت احیاء و انکشاف دهات



د افغانستان اسلامي امارت
د کليو ديارغونې او پراختيا وزارت

د مقام د دفتر رياست

شماره: ۱۱۱۱۱۱۱۱

تاریخ: ۱۳۹۹/۱۱/۱۶

د مقام د دفتر رياست

شماره: ۱۱۱۱۱۱۱۱

تاریخ: ۱۳۹۹/۱۱/۱۶

هدایت نامه!

د کلیو د بیا رغونې او پراختیا وزارت ټولو مرکزي او ولایتي ریاستونو ته! دایلیزې

السلام علیکم ورحمة الله وبرکاته!

الله تعالی مو په ټولو شرعی امورو کې موفق وگره.

موضوع: د کلیوالي پراختیایي شوراګانو منحل کېدل:

وعد: د عالیقدر امیرالمؤمنین حفصه الله د شفايي هدایت په اساس د هیواد په ۳۴ ولایتونو کې ټولې کلیوالي پراختیایي شوراګانې منحل شوي دي. او د کلیو د بیا رغونې او پراختیا وزارت له لوري به له نوموړو شوراګانو سره د ټولو پروژو په هغه نیمه کاله یا تکمیل وې محسوس او تصفیې حساب کېږي. همدغه راز د کلیو د بیا رغونې او پراختیا وزارت په وړاندیز او د رئیس الوزرا عالی مقام په منظوري، د داخلي او خارجي مؤسساتو او انجمنګانو د فعالیت د استحکام او چارو د سمون طرز العمل په څلورمه ماده کې اوومه قتره اضافه شوې ده.

د اقتصادي (سکتوري) اداره دې په سیمه کې د کار د نقشې (پروژې) په انتخاب کې د علماء کرامو د شورا نظر له ځانه سره ولري.

پناه یان طرز العمل د دې لیک سره مل تاسوته در ولیرل شو. خپل اجراءات مو له نوموړي طرز العمل سره سم عیار کړئ.

د حاج ملا محمد یونس
د کلیو د بیا رغونې او پراختیا وزارت

۱۳۹۹-۱۱-۱۶

د حاج ملا محمد یونس
د کلیو د بیا رغونې او پراختیا وزارت

۱۳۹۹-۱۱-۱۶

非公式のAAN翻訳

Ministry of Rural Rehabilitation and Development 大臣

のオフィスから

レターNo[判読不能]

日付: **1445/11/14** [イスラム暦の日付は2024年5月23日に対応する]

インストラクション レター

農村復興開発省のすべての中央および省の部門へ[ダイクンディは長筆で書かれており、このコピーがダイクンディ州に送られることを示唆しています]

あなたに平安あれ、神の慈悲と祝福あれ!

アラーがシャリーアに関連するすべての事柄において私たちを団結させていただきますように。

トピック: コミュニティ開発評議会の解散

アミール・アル・ムニン(彼を守ってくださいますように)の口頭での助言に基づいて、すべてのコミュニティ開発評議会はこの解散する。省の農村リハビリテーションと開発は、これらのプロジェクトが半分完了しているか、完了しているかに関係なく、すべてのプロジェクトを終了させ、終了させる責任を議会に負わせる。同様に、農村復興開発省の提案に基づき、名誉首相の承認を得て、国内外の組織やNGOの活動の調整を改善するためのガイドラインの第4条と第7行に、以下の内容を追加する。

「プロジェクトが実施されているセクターの経済行政は、その地域で実施されるプロジェクトを決定する際に、尊敬されるウレマ評議会の意見を考慮に入れるべきである。」

言及されたガイドラインは、この手紙と一緒に送られている。貴方の活動がこれらのガイドラインと一致していることを確認せよ。

ワ・アル・サラーム

アル・ハッジ・ムハンマド・ユヌス・アクンザダ リハビリテーション・農村開発大臣代行

署名

以下は、文字の下に長文で書かれている。

日付:09.03.1403 [これは太陽のイスラム暦の日付で、2024年5月29日に対応する²³]

社会問題、開発

開発評議会の社会調整ディレクターを通じてコミュニケーションを取る。また、手紙を通じて、開発評議会からの未解決の問題の解決に関する指示を名誉省に求めよ。

²³アフガニスタン人は一般的に、ヒジュラ暦(西暦622年)からの太陽年を数えるカレンダーを使用する。IEAは、ヒジュラ暦以降の太陰年を数えるイスラム暦を使用することを好む。